

the
REFORMATION
herald

Vol. 64, No. 4

week of prayer

KNOWING
GOD

The Reformation Herald

Volume 64, Number 4

2023年末祈祷週

「神を知る」

2023年12月1日-10日

編集記

神を知る..... 3

神と語る

家庭で、家族の輪で、公で一わたしたちには何という特
権があることだろう！ 5

殺す知識

エデンの時代より、いつも避けるべき誘惑する「木」が存
在してきた 11

神はあなたを知っておられるだろうか？

全知のお方はわたしたちのすべての思想と動機をご存知
である..... 17

問題の本当の原因

わたしたちのための神の祝福を受けるためにより高い地
へ上るべき時 23

救い主にお会いする

イエスはわたしたちの最大の必要、最大の希望、唯一の
救い主..... 29

ここで今、神を知る

イエスとの歩みは将来だけではない—この地上で持つこと
のできる喜びである 35

永遠に神を知る

わたしたちが永遠に住むために、永遠のお方が心に住ま
なければならない..... 41

詩 わたしたちはあなたを知らなかった 47

まえがき

このお方を知ることは、このお方を愛することである

私たちの主イエスは何と素晴らしい救い主でしょう！この
お方を知れば知るほど、愛するようになります。それにより、
当然の結果として同じような尊い信仰を持つ他の信者と交
わることとなります。毎年の祈禱週は、この点で私たちの経

験を豊かにする絶好の機会となります。この一年間、主は
私たちに良くてくださったのではないのでしょうか。それは否め
ません。神の恵みがなければ、私たちは今ここでこのような
特別な朗読の会に参加することはなかったでしょう。

「キリストが、父なる神に祈られた祈りの中に、わたしたち
が忘れてはならない教訓が教えられている。それは『永遠の
命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなた
がつかわされたイエス・キリストとを知ることであります』といわ
れたことばである（ヨハネ17:3）。これが真の教育である。
これが、人に力を与えるものである。神と、神がつかわされた
イエス・キリストを体験によって知ることは、人間を神のみ姿
に変えるのである。これは、人を自己を治めるものにする。
低い性質の衝動と欲望とは、高度の意思の力に支配され
るようになる。そして、それは、また、彼を神の子すなわち、
天国の相続人とし、無限の神との交わりに入れ、宇宙の豊
富な富を開いて見せるのである。』¹

神をもっと知りたいという熱烈な願いを持ちながら、「神を知
る」というテーマでこの読み物を読むとき、私たちは計り知れ
ないほどの豊かな祝福を受けることができます。この目的に
私たちの思いを向け、この読み物を遠隔地にいるか、家か
ら出られない可能性のある人々とも共有し、また次の日を
覚えましょう。

祈りと断食の日：安息日12月9日

伝道献金：日曜日12月10日

神をもっと知りたいという熱烈な願いを持ちながら、「神を知
る」というテーマでこの読み物を読むとき、私たちは計り知れ
ないほどの豊かな祝福を受けることができます。この目的に
私たちの思いを向け、この読み物を遠隔地にいるか、家か
ら出られない可能性のある人々とも共有し、また次の日を
覚えましょう。¹

1.キリストの実物教訓90

セブンスデー・アドベンチスト改革運動出版

「世界で最も欠乏しているものは人物—売買されない人—である。」(教育54)

編集者： L. Tudoroiu

編集アシスタント： B. Montrose

レイアウトとデザイン： E. Lee

Web: <http://www.4angels.jp>; E-mail:

sdarm.shomaru@gmail.com

Vol. 64, No. 4; Copyright © 2023 10月-12月版

Illustrations: Adobe Stocks on the front cover and pp. 3, 4, 8, 12, 15, 16, 19, 20, 24, 26, 28, 30, 32.

編集記

神を知る

だれと話して友達になるかを決めることは、人生に大きな違いをもたらします。ソーシャルメディアは、通常、高速かつ頻繁に行われる通信方法であるため、多くの人々の生活にある程度の変革をもたらしました。どのような場合でも、ソーシャルメディア、電話、テキスト、手紙、または直接会うことにより、良き真の友人とコミュニケーションをとることは、人生に本当の励ましを与えます。一方で、偽りの友人や有害な

知人は落胆を引き起こしたり、うつ病を引き起こすことすらあります。人との交わりの量、強さ、頻度はすべて、違いを生み出します。

この点について私達は、自分が思っているよりも多くの選択肢をもつことができます。私たちは、人生におけるある事柄をコントロールすることはできませんが、他のことについては、ある程度、決定することができます。使徒パウロは次のように警告しています。

「まちがってはいけない。悪い交わりは、良いならわしをそこなう」(コリント第一 15:33)。

「虚栄的、不注意で墮落した心をもつ人々との交わりほど、重要な印象や良い願望を効果的に阻止し、追放してしまうものはない。…彼らが他の面で魅力的であればあるほど、彼らの仲間としての影響力は、ますます恐れられるべきである。なぜなら、彼らは無宗教の生活を周囲に投げかけ、非常に多くの危険な魅力を放っているからである。」¹

驚くべき対比

しかし、もし私たちが、純粹、神聖で完全な方と交わり、その方をよく知るようになったらどうでしょう？それは、何にも勝る祝福でしょう！私たちの創造者と密接に交わることによって、私たちの霊的生活は活気で満ち溢れ、活力を与えられ、道徳的な羅針盤が正しく設定され、私たちの心は清められます。

「主はわたしたちをこの世から呼び出し、主にとって特別で聖なる民になるようにと言われた。『わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた』(エレミヤ31:3)。あなたは本当に神に近づいているだろうか。もしそうであれば、主がたしかにあなたがたに近づいておられる。」²

「いつも、主を目の前にあおいで、主に感謝と賛美をささげているならば、わたしたちの信仰生活は常に新鮮さを保つことができる。わたしたちの祈りは、ちょうど友人と語るように、

神との会話のかたちになり、神は、わたしたちに個人的に、神の神秘について語りかけてくださるのである。わたしたちは、しばしば尊いイエスの臨在を身近に感じることがある。昔、神がエノクと語られたときのように、神がわたしたちに近づかれると、わたしたちの心中も燃えるのをおぼえる。こうしたことがほんとうに、クリスチャンの経験となるときに、そのクリスチャン生活には、純真、けんそん、柔和、心のひくさなどがいちじるしくなり、接するすべての人に、彼がイエスと共にあって、イエスから学んだ者であると感じさせるのである。」³

これこそ世が見たいと渴望しているものです。そのようなキリストとの緊密な関係、すなわちキリストとの個人的なつながりがなければ、キリストの名における私たちの伝道の働きは、実を結ばないことでしょう。

「使徒たちの時代の御霊の注ぎは「前の雨」であり、その結果は栄光に満ちていた。しかし、後の雨はもっと豊かになるだろう。」⁴

前の雨の時の人々の経験が今日も繰り返されますように、そして実際、はるかに豊富に繰り返されますように。「人々はペテロとヨハネとの大胆な話ぶりを見、また同時に、ふた

りが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして**彼がイエスと共にいた者であることを認めた。**」（使徒行伝4:13 太字で強調）。

「神の民が神の前で魂をへりくだらせ、心を尽くして聖霊を個人的に求めるとき、この聖句に表されているような証が人間の口から聞かれるだろう。『この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。』神の愛に輝く顔があり、聖なる火に触れられたくちびるが次のように言うであろう、『御子イエス・キリストの血がわたしたちをすべての罪からきよめるのである。』」⁵

引用：

教会への証3巻126

手紙と原稿6巻, 手紙31, 1889年

キリストの実物教訓107, 109

教会への証8巻21

ILN・G・柯イト1888年原稿1008

神と語る

エレン・G・ホワイト著書編さん

神ご自身の命の生気が人体に吹き込まれ、人を生きた魂、すなわち道徳的な賜物とまた彼自身の行動を導く意思を持つ者とした。彼には神性にあずかる者になる特権があった。これより彼は悪を克服し、良いものを愛し、選ぶ力を与えられる。彼には良心があり、それは神の支配下で、正しいことを承認し、悪を非難する。そして、もし望むならば、彼は神との交わりを持つことができる。彼は、エノクのように神と共に歩み、語るができる。この聖なる関係は、キリストを個人的な救い主として信じる者に必ず与えられる。¹

開かれた関係

エノクは神と共に歩み、誘惑に襲われたとき、彼はそれについて神と話すことができた。彼は私たちが持っている「聖書にはこのように書かれている」を有してはいなかったが、天来の伴侶の知識を持っていた。彼は、神を彼の相談者とし、イエスと密接に結びついていた。そしてエノクは彼の歩みにおいて尊ばれた。彼は死を見ることなく昇天した。そして、時の終わりに移されるのは、地上で神と交わる人々なのである。

2

神は、自然と啓示、摂理、および聖霊の感化を通して私たちに語られる。しかし、それだけでは十分ではない。私たちも、また、神に心を注ぎ出す必要がある。霊的生命と力を得るためには、私たちの天の父と実際に交わらねばならない。私たちは、心が神に引かれ、神のみわざ、あわれみ、祝福などを瞑想するであろうが、これは、十分な意味での

神との交わりではない。神と交わるためには、私たちの実生活について何か神に話すことがなければならない。

祈りとは、友だちに語るように、心を神に打ち明けることである。これは何も私たちがどんなものであるかを神に知らせる必要があるからではなく、私たちが神を受け入れるのに必要だからである。祈りは、神を私たちにまで呼びおろすのではなく、私たちを神の許へひき上げるのである。³

私たちの天の父は、あふれるばかりの祝福をわたしたちに与えたいと待っておいでになる。限りなき愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、私たちの特権である。それなのに私たちが少ししか祈らないのは、なんと不思議なことであろう…。

祈りは、全能の神の無限の資材が蓄えられてある天の倉を開く信仰の手に握られた鍵である。それにもかかわらず、神の子らは、なぜ祈りをおろそかにするのであろう。つねに祈り、忠実に見張っていなければ、私たちは次第に不注意になって、正しい道からそれる危険がある…。

けれども、心の砕けた悔い改めた者の祈りは、必ず聞かれるのである。心に覚えのある悪をすべて正したときに、神は私たちの祈りを聞いてくださると信じることができる。⁴

継続的な交わり

神に、祈りをささげるのに、不適當な時とか場所とかはない。熱心な祈りの精神をもって心を天に向けるのに妨げなるものは何もない。雑踏した路上でも、商取引の最中でも、ちょうどネヘミヤがアルタシャスタ王の前で自分の願いを告げ

たときのように、神に願いをささげて導きを請うことができる。私たちがどこにしようともっとも緊密な交わりを見出すことができる。⁵

どんな望み、喜び、悲しみ、わずらい、恐れもみな神の前におこす。何をもってきても重すぎたり、神を疲れさせたりすることはない。頭の髪の毛でさえ数えられる神は、子らの必要に無関心ではない。「主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである。」（ヤコブ 5:11）とある。愛にみちた神のみ心は、私たちが悲しみを口にしてさえ心をいためられる。心を煩わすことはなんでも神に申し上げよう。神は諸世界を支え、全宇宙のすべてを支配しておられるのであるから、神にとって大き過ぎて支えきれないものはない。私たちの平和にかかわることであつたならばどんなことでも、小さすぎてお気づきならないということはない。私たちのどんなに暗い経験も、暗すぎてお読みになれないということはない。またどんなに難問題でも、神には解決できないということはない。⁶

求めよ、捜せ、門をたたけ

「求めよ」。求めることは、あなたが必要を認めていることをあらわす。あなたが信仰をもって求めるなら、与えられるのである。主は誓っておられるから、それは必ず成し遂げられる。もしあなたが真に悔い改めて主に来るならば、主の約束なされたことを求めることが出すぎたことと考える必要はない。キリストにならって完全な品性を築こうとし、必要な祝福を求めるならば、主は、あなたが、まちがいないお約束に従って求めているのだと仰せになるのである。あなたが自分は罪人であるということを感じて自覚すれば、主の情けとあわれみとを何らばばかることなく求めてよいのである。神のもとに来ることのできる条件は、あなたが清いということではなく、神にすべての罪と不義から清めていただきたいと願うことである。

わたしたちがいつどんな時でもお願いできるというのは、わたしたちが大きな必要に迫られていて、神と神の贖いの力がなければどうにもならない状態に陥っているからである。

「捜せ」。神の祝福だけでなく、神ご自身を求めなさい。「あなたは神と和らいで、平安を得るがよい」（ヨブ記 22:21）捜しなさい。そうすれば、見いだすであろう。神はあなたを捜し求めておられる。神のもとに行きたいという願いそのものが、聖霊が引き寄せていることにほかならない。その引き寄せる力に身をゆだねなさい。キリストは、試みられる者、あやまちに陥っている者、信仰のない者のためにとりなしておられる。主は彼らを引き上げてご自分との交わりに入れようとおられる。「あなたがもし彼を求めるならば会うことができる」（歴代志上28:9）。

「門をたたけ」。わたしたちは特別の招きをいただいて、神のもとに来る。神はわたしたちを謁見室に迎え入れようと待っておられる…。神の祝福を望む者は、主よ、あなたは、「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」と言われましたと言って、確信をもって恵みの戸をたたいて待つことである。⁷

人類の長兄であられるイエスは、永遠のみ座のそばにおられる。イエスは救い主としてのご自分に顔を向けているひとりびとりをごらんになる。イエスは、人性の弱点は何か、われわれの足りないところは何か、われわれの誘惑の力はどこにあるかをご自分の経験を通して知っておられる。なぜなら主は、すべての点にわれわれと同じように試みられ、しかも罪を犯されなかったからである。主はおののいている神の子であるあなたを見守っておられる。あなたは試みられるだろうか。主は救い出してください。あなたは、弱いだろうか。主は強くしてください。あなたは、無知だろうか。主は知識を与えてください。あなたは、傷ついているだろうか。主はいやしてください。…。

あなたの心配事や試練が何であろうと、主の前に事情をうち明けなさい。あなたの心には忍耐のささえができる。あなたが困惑や困難からぬけ出す道が開かれる。あなたは自分が弱く無力であることを知れば知るほど、イエスの力によってますます強くなる。あなたの重荷が重ければ重いほど、その重荷を負ってくださるかたにまかせたときの休みは有難いのである。⁸

最高の敬神

神のみ前にくるすべての者の態度は、けんそんで敬神深いものでなければならない。われわれはイエスのみ名によって、確信を持ってみ前に出ることができるが、あたかも神がわれわれと同等であられるかのように、無遠慮な態度で近づくべきではない。近づくことのできない光の中に住み、偉大で、全能であられる聖なる神にむかって、あたかも同等か、あるいは目下のものにはなしかけるような言葉を用いる人がある。⁹

私たちの創造主に対する畏敬の念がますます失われ、彼の偉大さと威厳に対する軽視がますます強まっている。しかし、神はこの終わりの時代において、私たちに語っておられる・・・

岩を動かす風と嵐の後に、静かな細い声を聞いたなら、すべての者は顔を覆うがよい。なぜなら、神が非常に近くにおられるからである。彼らはイエス・キリストのうちに自らを隠すべきである。このお方が彼らの隠れ場だからである。岩の裂け目は、謙遜な探究者がひざまずく態度で、主がご自分の僕に言われることを聞こうと待っている間、キリストご自身の刺しとおされた手によって覆い隠されるのである。¹⁰

大いなる特権

私たちが効果のある祈りをするということ、すなわち誤りの多い、無価値な人間が神に祈願をささげる能力をもっているということはふしぎなこと

である。無限の神とつながるということ—これよりも高いどんな能力を人間は望むことができるであろうか。弱い罪深い人間が創造主に向かって語る特権を持っているのである。宇宙の統治者なる神のみ座に達することばを私たちは語ることができるのである。

道を歩きながらイエスと語ることができるのである。わたしはあなたの右側にいると、イエスは言っておられる。

心の中で神とともに交わることができる。またイエスとつれだつて歩むことができる。日ごとの働きにたずさわっているときに心の願いを声なきことばにだすことができる。それは人間の耳には聞こえないが、そのことばは忘れられたり、消え失せたりすることはない。何ものも、魂の願いをかき消すことができない。それは町の騒音や機械の音を圧してのぼってゆく。私たちは、神に語っているのであって、その祈りはきかれるのである。「求めよ、そうすれば与えられるであろう」(マタイ 7:7)。けんそんを、知恵を、勇気を、信仰を増し加えられるように祈りなさい。真心からの祈りには応答がある。それは願った通りに、あるいは期待したその時に答えられないかもしれないが、私たちの必要に最もよく適した方法で最もよい時期に答えられる。孤独の中に疲れ果て、試みの中にあつてささげられる祈りに神は答えてくださる。それは必ずしも期待通りとは限らないが、いつも私たちの益となるように答えられる。¹¹

神の御座への道は常に開かれている。あなたは常に、ひざまずいて祈ることができるわけではないが、あなたの静かな嘆願は、絶えず力と導きを求めて神に昇ることができる。あなたは誘惑にあうだろうが、その時は、いと高きお方の秘密の場所に逃げるることができる。彼ご自身の永遠の腕は、あなたの下にあるであろう・・・

謙遜な心で祈りなさい。しばしば祈りの中で主を求めなさい。秘密の場所で、一人で、目はイエスを見、耳はイエスに向かって開かれる。あなたは全能者の影の下にとどまるた

めに、祈りの秘密の場所から出てくる。誘惑が来るが、あなたはイエスの側にますます近づき、このお方の手の中に自分の手を置く。そのとき、あなたは豊かな経験を得て、彼の愛にやすらぎ、彼の憐れみを喜ぶ。心配、困惑や心配はなくなり、イエス・キリストにおいて喜ぶ。魂は御父の声を聞くのに早く、あなたは神と交わる。すべての批判は払いのけられ、他人に対するすべての裁きは心の中から追い払われる。¹

公の祈り

すべての人は短く祈ることがクリスチャンの義務であると感じるべきである。世界中をめぐることなく、あなたが望むことだけを主に告げなさい。個人的な祈りにおいては、だれでも望む限り長く祈り、好きなだけ細部まで明確に述べる特権がある。彼らは親戚や友人全員のために祈ることができる。密室は、あらゆる個人的な困難、試練、誘惑を告げる場所である。神を礼拝するための公の集会は、心の中の秘密を明らかにするための場所ではない。 . . .

私は、個人的な神への祈りのうちに自分たちの問題を持ち出さずにおいて伝えるのではなく、祈禱会のために取っておき、そこで数日間のために祈りをする人がいるのではないかと案じている。そのような人は集会や祈禱会の破壊者と命名できるかもしれない。彼らは光を発せず、だれも啓発しない。彼らの冷たく凍りついた祈りと、無意味な証は、影を落とす。彼らがやりおえると全員が喜ぶが、彼らの祈りが集会にもたらす寒さと暗闇を払拭することはほとんど不可能である。私が受けてきた光から、私たちの集会は霊的かつ社交的なものであり、あまり長くなりすぎないようにすべきである。遠慮、誇り、虚栄心、そして人間への恐れは、自分の家庭においてくるべきである。些細な意見の違いや偏見を、そのような集会に持ち込んではいならない。団結した家族

のように、素朴さ、柔和さ、自信、そして愛が、集会に集まる兄弟姉妹の心の中に存在すべきであり、彼らの様々な光を一つに集めることによって彼らは新たにされ、活力を得る。

13

個人的な祈り

家庭や公の祈りだけでは十分ではない。秘密の祈りは非常に重要である。孤独の中で、魂は神の検査の目にさらされ、あらゆる動機が精査される。秘密の祈り！なんと貴重なことだろう！魂は神と交わるのである！秘密の祈りは、祈りを聞いてくださる神だけが聞くものである。好奇心旺盛な耳が、そのような嘆願の重荷を受けるべきではない。密かな祈りの中では、魂は周囲の影響や興奮から解放される。密かな祈りは静かに、しかし熱心さと共に神へ伝わる。秘密の祈りは、しばしば大声での祈りによって歪められ、その良い点が失われる。神への穏やかで静かな信頼が失われ、祈りの声が高くなり、興奮が促進され、秘密の祈りはその穏やかで神聖な影響を失う。感情の嵐、言葉の嵐が生じるため、秘密の真心による献身を捧げている魂に対して語りかけられる小さな声を聞き分けることが不可能になる。秘密の祈りは、適切に行われれば、大きな利益をもたらす。しかし、家族や近所全員に公開される祈りは秘密の祈りではなく、たとえそれが秘密の祈りであると思われていたとしても、その祈りから神の力を受けることはない。心から生じる祈りに応えるために耳を開いておられる方から発せられる影響力は、優しく永続的である。魂は、穏やかで単純な信仰によって神との交わりを保ち、その魂は神聖な光線を自分自身に集めるため、サタンから生じる争いに耐えられるようになる。神は私たちの力のやぐらであられる。¹⁴

神のほかだれの目も見ることができず、かれの他だれも聞くことのできないひそかな祈りの場所で、わたしたちは心の

奥底にひそむ願いや望みを無限のあわれみに富んでおられる父に注ぎ出せるのであるこうして、心が静まっている時に、助けを求める人間の叫びに必ずお答えになるあのみ声が、わたしたちの心に語りかけてくださる。… 隠れたところで主を求め、その必要を主に告げて助けを求める者の願いがむなしくなることはない。¹⁵

模範となる祈り

天の父よ、私たちは今、まさに貧しく、困窮し、無力なままであなたのところに参りますー

あなたが私たちの問題を引き受けてくださらなければなりません。そしてあなたはこう言われました、「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」。

この会衆の嘆願が、あなたの御座の前にのぼりますように。私たちは、救い主があなたの前にご自分の両手を差し出し、「わたしは彼らを手のひらに刻みました」と述べていることを知っています。ああ、神よ、神から去っていく人々のための私たちの嘆願を、キリストのためにお受け入れくださるようお願いいたします。彼らは目の前に何があるかを理解していません。しかし、あなたの義が彼らの前に行き、主の栄光が彼らのしんがりとなるというあなたの約束が彼らにあります。

われらが救い主よ、私たちはあなたを愛しています。そして私たちは、救うことができるすべての魂があなたの囲いの中に集められるのを見たいと思っています。この安息日に、この会衆全体にあなたの聖潔を吹き込んでくださるよう、嘆願します。ああ、ここにいるあなたの民に天の光が輝きますように。私たちを離れる人々の上に聖霊が留まりますように。主よ、私たちは彼らのために祈ると彼らに告げました。そして私たちは今、彼らが神の武具で実を固めるのをあなたが助けくださるよう祈りつつ、嘆願をお捧げします。祈ります。主よ、彼らを引き受け、今日の奉仕のために彼らを準備させて

ください。ああ、主よ、私はあなたに彼らが入ることができる扉を開けてくださるようお願いいたします。ここに、もうすぐ中国へ行く準備をしている人たちがいます。主よ、彼らを奉仕にふさわしいものにしてください。彼らに勇気を与えてください。彼らの前の道を備えてください。彼らは、自分たちと同じ国籍を持つ人々に神の真理を伝える方法を学んできました。わが父よ、あなたは彼らを助けてくださいますように。

主よ、教会をかつてなかったほど、目覚めさせてください。ああ、主よ、彼らの心を奮い立たせてください。彼らの多くは今、ほとんど何もしてこなかったために麻痺状態にあります。しかし、彼らがあなたのためにその能力を使い始めるとき、私たちはあなたが彼らにあなたのリバイバルの力を与えてくださることを知っています。ああ、私の天の父よ、ナザレのイエスのために、この会衆を祝福してくださるようお願いいたします。シオンにいる罪人たちが罪を自覚させる神の力を自分たちの上に感じますように。彼らがあなたの前で震えるように。手遅れになるまであなたを求めることを怠ることがないように。主よ、彼らが救い主を受け入れるように彼らの心を開いて下さい。救い主は、頭が夜露で濡れるまで、中に入ろうと門をたたき、たたき、たたき続けてこられました。ああ、私の父よ、私の父よ、あなたはキリストのために、この会衆のすべての心を動かしてください！

イエスよ、神の救いが明らかになりますように、そして献金によってその働きを気高く支えてきた私たちの民が、善行にうみ疲れることがないようにお願いします。私たちは、彼らに次から次へと呼びかけがなされることを知っています。しかし、私の父よ、あなたは彼らに次々と賜物を与えておられ、彼らに露、太陽の光、夕立の祝福を与え、彼らの畑を実り豊かにして下さいます。

天の父なるあなたにお願いします。この会衆が家に戻ったとき、自分たちのつましい方法で隣人を訪問し、病人を助け、伝道活動に努めるとき、彼らがどこにいても、天の豊

かな祝福が彼らの上に降り注ぎますように。

ああ、天の父よ、天の父よ、わたしはまっすぐにあなたを見ます。あなたはわたしの嘆願を何度も聞いてくださいました。わたしはあなたを信じます。あなたにあつて喜びます。そしてわたしはあなたのみ言葉が実証されることを知っています。

ここにいる罪人たちを祝福してください。ここにいる若者たちを祝福してください。彼らが教育を受けるために私たちの学校に通うとき、彼らが神の伝道者となれるように準備させてください。彼らをありのままにお受け入れ下さい。あなたの憐れみのみ腕で彼らを包み、彼らを惜しみなく愛してください。そうすれば、人類家族があなたによってふるさとに集められるとき、すなわち、私たちが王族の一員、天の王の子として一致するとき、あなたの祝福された御名はすべての栄光を受けるでしょう。…

ああ、私たちには祈りを聞いてくださり、私たちの弱さを思いやる救い主がいらっしゃるということをご感謝します。そして魂の救いのために働く特権があることを感謝します。私たちの牧師たちを祝福してください。彼らにあなたの力を吹き込んでください。聖霊が彼らの上に臨んでくださいますように。ああ、天を開き、あなたの栄光の光を表されますように。そしてイスラエルには、祈りを聞いて応えてくださる神がおられることが知らされるように。

そして今、私たちはすべてをあなたにおゆだねいたします

。私たちは、これらの伝道者たちがあなたの力によって守られることを知っています。なぜなら、あなただけが彼らを守ることができるからです。そしてあなたの祝福された御名は、あらゆる賞賛とあらゆる栄光を受けるでしょう。現在も、そして永遠に。アーメン。¹⁶

引用：

1. サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1897年8月26日
2. 同上1897年11月11日
3. キリストへの道126
4. 同上127, 129
5. 同上136
6. 同上137, 138
7. 祝福の山162-164
8. 各時代の希望中巻48,49
9. 人類のあけぼの上巻286
10. セレクトド・メッセージ 2巻315, 316
11. 青年への使命246
12. 天国で86
13. 教会への証2巻578
14. 同上.189
15. 祝福の山103, 104
16. 原稿リ-ス4巻294-296

殺す知識

ロリー・C.ドゥマゲット著

世界総会、第一副総理

エデンにおける危機

エデンの園には2本の特別な木があり、それぞれが明確な目的のために神によって植えられていました。

1つ目は癒しの力を持つ生命の木、つまり若さと不死の泉であり、2つ目は善悪の知識を与える木でした。エバはこの2番目の木の実を食べました。そのとき彼女は、「へびに騙されて、神のように賢くする何か差し控えられていると考えた。彼女は神を信じる代わりに、神のいつくしみ深さを卑劣にも信頼せず、サタンの言葉を大切にした。」¹

「ここで偽りの父は、言明された神の御言葉に真っ向から反対する主張をした。サタンはエバに、彼女は不滅のものとして創造されているのであり、死ぬ可能性はないと保証した。もし彼女と彼女の夫が知識の木の実を食べれば、彼らの理解力が啓発され、拡大され、高貴になり、彼らが神ご自身と同等になることを神はご存じだと語った。」²

「アダムが罪を犯した後、彼は最初、新しくより高い存在へと上昇するかのよう感じた。しかしすぐに、自分の罪の思想に彼は恐怖を感じた。それまで穏やかで温度が均一だった空気が、寒く感じた。罪を犯した二人には罪の自覚があった。彼らは将来への恐怖、欠乏感、魂が裸であることを感じていた。かんばしい愛、平和、幸福で満ち足りた至福が彼らから取り去られ、代わりに、これまで経験したことのない何らかの欠乏が彼らを襲った。その時、彼らは初めて自分の外面に注意を向けた。彼らはそれまで服を着ていなかったが、天の天使たちと同じように光で覆われていた。彼らを包んでいたこの光は去った。彼らは欠乏感と裸の感覚に気づ

いた後、それらを軽減するために、自分たちの姿を覆うものを探すことに注意を向けた。なぜなら、彼らはどうして、裸のまま神と天使に会うことはできようか。

彼らの罪は今、真実の光の中で彼らの目の前にある。神の明言された命令に対する彼らの違反は、よりはっきりと性質を表した。アダムは、自分のそばを離れて、へびに騙されたエバの愚かさを非難した。彼らは二人とも、自分たちを幸せにするためにすべてを与えてくださった神は、彼らに対する大きな愛のゆえに彼らの不従順を許して下さるかもしれないと考え、実際のところ、彼らの罰はそれほど恐ろしいものではないのではないかとむなしい希望をいだいた。」³

その時、彼らの中で新たな傾向が生じた。悪への傾向が形成され、今やその傾向が彼らを奴隷にした。彼らは、新しい罪深さという高さを体験した。それは、悪を行う知識という新しい知識であった。「こうして、アダムとエバは、サタンによって踊らされ、神の抑制が全く、効かなくなってしまった。偽りの教師は、神が拒否した知識を彼らが持つように教育したので、彼らは神への違反の結果を刈り取るようになった。」⁴

洪水の前に

「人類は、まだ初期の活力を多く保っていた。…偉大な体格と体力を持ち、その知恵深いことで有名な巨人がたくさんいた。彼らは、実に巧妙に驚くべきものを作り出すことにたけていた。しかし、彼らは、その技量と能力に応じて、ほし

いままに悪を行なう罪も大きかった。

神は、これらの洪水前の人々に、多くの豊かな賜物をお与えになった。ところが彼らは、自分自身をあがめるためにそれをうい、それをお与えになったかたよりも、賜物そのものに愛着を持って、それらをのろいにかえた。…彼らは、神のことを考えようとしなかったため、いつのまにか神の存在を否定するようになった。彼らは、自然の神のかわりに、自然を拝んだ。彼らは、人間の才能をたたえ、自分自身の手のわざを拝み、子供たちに刻んだ像を拝むことを教えた。…

人々は全く神を忘れ、自分たちがかってにつくり上げたものを拝んでいた。その結果、彼らはますます墮落した…

もし、精神が、人間的水準以上に高められず、無限の知恵と愛を瞑想するために信仰によって高尚にされないならば、人間は常に低い方へ低い方へと沈んでいくのである…神は、生活の基準として、律法を人々にお与えになったが、人々は、律法を犯し、そのためにありとあらゆる罪が生じた。人々は公然と、しかも大胆に悪を行った。正義は地にふみにじられ、圧迫される者の叫び声は天に達した。』⁵

「最初に、神が定められたことに反して多くの妻を持つことが早くから行われていた。主は、アダムにひとり妻を与えて、このことに関する神の定めを示された。しかし、墮落後、人々は自分たちの罪深い欲望を満たそうとした。そのために、犯罪と不幸が急激に増加した。結婚関係や所有権は尊重されなかった。他人の妻でも財産でも、ほしいと思えば力づくで奪って、その暴力行為を彼らは勝ち誇った。彼らは、動物の生命を奪うことを喜び、肉を食物に用いることによって、彼らは、ますます残虐、凶悪になり、ついには、人間の生命に対して驚くべき無関心を示した。』⁶

この禁断の性知識の探求は、一夫多妻制だけでは終わらなかった。

「もし他の罪にまさって洪水による民族の滅亡を必要とした罪が一つあるとすれば、それは神のかたちを汚し、あらゆる

場所に混乱を引き起こした人と獣の融合という卑劣な罪であった。神は、ご自分の前で自分たちの道を墮落させてきた強力な長寿の種族を、洪水によって滅ぼすことを計画された。』⁷

新しい進歩的な知識を見つける探求は続きました。しかし、彼らが渴望していた知識は、偽りの父によって発明されたものでした。その後、間もなく、彼らの心に浮かぶあらゆる想像はいつも悪い事ばかりとなったため、主はノアにこう言われました。「わたしは、すべての人を絶やそうと決心した。彼らは地を暴虐で満たしたから、わたしは彼らを地とともに滅ぼそう。」（創世記6:13）。だれ一人として知識の誤用の結果をまぬかれるものはありません。ノアとその家族を除いて全員が死にました。

バベルの塔

洪水がおさまった後、「創造主を忘れて、神の律法の制限から脱出しようと望んだ者らは、神を恐れる仲間の教えや模範を絶えずきらっていた。やがて、彼らは、神の礼拝者から分離することに決めた。…

彼らは、ここに都市を建設し、世界の驚異となるような巨大な高塔を建てることにした。この企ては、人々が広く離散して住むことを防ぐために考案された。神は、人間が、広く地球上にわかれて住み、地に満ち、地を従わせるように指示されていた。しかし、バベルの建設者たちは、彼らの社会を一つの組織にし、やがて、全世界を含むに至る帝国を築こうとした。…

シナル平原の住民は、この地上に再び洪水を起こさないという神の契約を信じなかった。彼らのなかには、神の存在を否定し、洪水は自然的原因によって起こったとするものが多かった。他の者は至高者を信じ、神が洪水前の世界を滅ぼしたことを信じていた。しかし、彼らの心は、カインと同様に神に反抗的であった。彼らが塔を建てた目的の一つ

は、もし、再び洪水が起こったならば、彼らの身の安全を確保するためであった。彼らは、その建造物、水が達したところよりもはるかに高く築き上げて、どんな危険にも耐えられるようにしようと思った。」⁸

建築と構造設計に関する新しい知識が発明されました。この巨大な塔を建設するために膨大な数の人々が組織化され、指示をするための知識も開発されました。すぐに神に反抗してひとり人間を王にし、また、その都市を宇宙における大都市にしようとする君主制という新しい様式が導入されました。

「突然、これまで順調に進んでいた工事が止められた。建設者たちの意図をくじくために、天使が送られた。塔はすでに高くそびえて、上で働いている者が、下にいるものと直接話することはできなかった。それで、あちらこちらに人員が配置されて、必要な資材の注文や工事の指示などを下の者に取り次いだ。こうして、伝令が次々に伝わるうちに、言葉が乱れ、必要でない材料を注文したり、初めの指示とは全く反対の指示を伝えたりするようになった。混乱とろづばいが起こった。工事は全面的に停止した。もはや調和と協力は望むことができなかった。建設者たちは、なぜ彼らの間にこの奇妙な誤解が起こったかを全く説明することができず、怒りと失望のうちに、互いに非難しあった。彼らの連合は、争闘と流血に終わったのである。いなくまが、神の怒りのしるしとして天からくだり、塔の上部を破壊して地に落とした。人々は、神が天を支配しておられることを知らされた。」⁹

荒野の中で

神がご自分の民をエジプトから救い出したとき、パロを含むエジプト人は、イスラエルの神が強力であり、生ける神であることを認めました。イスラエル人は主にのみ仕えることができるように、自由で、幸せで、健康な人々にするために、奇

跡的に束縛から解放されました。神は、彼らを統治するための律法と、彼らを霊的な道へ導くための定めをお与えになりました。神は、彼らの品性を試し、また神の性質についてもっと知ることができるように、彼らを二週間でまっすぐにカナンへ導く代わりに、四十年間砂漠の中へと導かれました。シナイ山に到達すると、主はモーセに十戒をお与えになりました。モーセが山から戻ってくるのを待っている間、イスラエル人は落ち着かず、なぜモーセの到着が遅れたのかについて不安になりました。彼らは約束の地に進むのではなく、エジプトに後退することを決意し、最終的に彼らを導く神として金の子牛の像を作ることを決定しました。アロンは副司令官であったため、人々は彼にそれを行うよう要求しました。

「アロンは自分の身の安全のために恐れた。そして神の名譽のために気高く立ち上がるのではなく、群衆の要求に屈した…

彼はエジプトの神々を模倣して、鑄型の子牛を作った。民はこう宣言した。『イスラエルよ、あなたをエジプトの地から導き出したのは、これだ』。そしてアロンは卑劣にも、エホバに対するこの侮辱を許した。彼はそれ以上のことをした。その黄金の神が非常に満足して受け入れられたことを見て、彼はその前に祭壇を築き、「明日は主の祭である」と宣言した…『主の祭』を開くという口実のもとに、彼らは暴食と放縱な酒宴に身を委ねた。」¹⁰

この待ち時間に、彼らは、自分たちの信仰を真の神への知識と忠誠に向けるかわりに、偽りの神に関する知識を受け入れることに向きを変えました。彼らは祭を開きましたが、大食い、放縱、お祭り騒ぎという禁断の知識に終わりました。

それは、「信心のかたち」を装った快樂への愛でした！人が礼拝の儀式を守りながら、利己的または官能的な満足を満たすことに専念することを許す宗教は、イスラエルの時代に多くの人々を喜ばせた。そして、アロンは、教会における権

威のある地位につきながら

、献身していない人々の欲望に屈し、彼らが罪を犯すことを奨励してしまいました。

彼らの荒々しく騒々しい祝宴真っ最中に、モーセは二つの石の板を持って野営地に到着し、イスラエルが金の子牛を崇拜しているのを目にしました。彼の怒りは激しく燃え上がり、石の板を投げ割って、金の子牛を焼き、粉にして川にばらまき、彼らが礼拝していた偽りの神が完全に無価値であることを示すために、人々に飲ませました。

偽りの父が与えた知識を受け入れる傾向は何度も繰り返されてきました。このとき、人々は全能の神を無視し、その代わりに、物を言わず、動けず、鑄型のエジプトの神が彼らをエジプトに導いてくれるという歪んだ考えを受け入れることを選択しました。そのような知識は破滅で終わったということを確認することができます。

メシヤの来臨において

ヘブル人は神の選民でした。メシヤが自分たちをローマ権力の束縛から解放するために来られるというのが彼らの共通の希望でした。しかし、救い主の使命の真の目的は、聖所の奉仕を通じて知られていました。すべての犠牲の捧げ物は救い主の来臨をあらかじめ示していました。過越の小羊と礼拝はキリストを指し示していました。これらの奉仕をながめることによって、神に関する真の知識を望む人々は、このお方が来られるのはご自分の民をその罪から救うためであることを悟るのでした。

預言者たちは何世紀にもわたってこのことについて詳細を明らかにし、ユダヤ人の指導者たちはキリストの奇跡的な誕生を知らないわけではありませんでした。彼らは羊飼いや博士たちの特別な到来の知らせを聞いていました。彼らはイエスが12歳のときに会堂でイエスに会い、ラビの学校に通

っていなかったにも関わらず、このお方の預言の知識に驚きました。彼らは、神の癒しと超自然的な力に特徴づけられたこのお方の働きを見ました。彼らは、イエスが偉大な『わたしはあってある者』であると主張し、偉大な権威をもって神殿を二度清めたのを聞きました。確かにメシヤは来られましたが、彼らは偽りの父が発明した知識を受け入れたため、メシヤを受け入れることができませんでした。彼らは、来たるべきメシヤは裕福な家庭の出身で、王家の血統を持ち、高度な教育を受けているはずだという考えを持ち続けました。彼らの心の中では、イエスにはこれらすべての条件を満たす資格がなかったように思えました。彼らはイエスを軽蔑し、拒絶し、心の底から憎みました。それがイエスを十字架につけるという彼らの決断を引き起こしました。

「『その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上に』という彼らの悪魔の叫びは、40年後に彼らの都と宮を襲った恐ろしい災難の中でごだまされた。みなそれはメシヤがごなたであるかについての誤った宿命的なおこがましい知識のゆえであった！」

わたしたちの時代に

わたしたちの時代に破滅的な知識の探求はさらに広範囲に及んでいます。主は憐れみ深く、主の大きい日に来る前に永遠の福音を響かせるために三天使のメッセージを送ってくださいました。彼らの特別なメッセージの1つは次の通りです。「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」（黙示録14:7）。

このメッセージの最初の宣言のすぐのちに、サタンは神が宇宙の創造者であるという知識を破壊しようとする使者を送りました。

1859年、英国の科学者チャールズ・ダーウィンは、「自然選択による種の起源、あるいは生命のための闘争における

有利な人種の保存について」という書物を書き、すべての生物の種類は創造されたのではなく、進化してきたと主張する進化論の基礎を築きました。悲しいことに、今日、小学校から大学に至るまで、ほとんどの教育機関がこの考えを支持しています。

サタンはまた、神の存在を完全に否定する別の学派を発明しました。無神論とは、いかなる神も信じない、あるいは神が存在することさえも信じないというものです。この哲学は、18世紀のいわゆる「啓蒙時代」に推進されました。この概念を採用した政治運動は、フランス革命の無法状態で最高潮に達しました。今なお、推定4億5,000万人から5億人が今日でも無神論を公言しています。

サタンはまだ自分の発明に満足していなかったため、汎神論も導入しました。これは、現実および宇宙は本質的に神性そのものであり、それらは最高の超自然的存在として今も拡大し、創造し続けているという考えです。太古の昔から、すべてのものは、すべての天体を含む神の現れとしての宇宙そのものとともに、すべてを包み込む内在的な神または女神を構成しているという説です。この考えはヨハネ・ハーベイ・ケログ博士を通じて初期のアドベンチスト派に浸透し、多くの牧師や教師を含む4,000人以上の教会員が信仰を離れる原因となりました。

サタンが発明したもう一つの学派は、いわゆるハイペリアン主義です。その学派は、「あなたは神である」と教えています。あなたが神になるということです。ひれ伏すべき創造神は存在しない。物質を超えたところに、非物質的な領域、つまりソースリアリティが存在します。サイケデリックな状態、周波数状態などにおいて、この世界の断片的な様子を垣間見ることができる。…

脳の還元弁を緩めることで、心の内なる領域と内なる神を探求することができる。」¹¹

異教とは別に、サタンはまさに選ばれた人々を欺こうとして、より多くの巧妙な形の宗教を発案して上げてきました。彼は、最後の残りの教会がこの地球上で唯一の神の教会であることを知っています。彼はこれらの信者たちを揺さぶり、別々のグループを形成させ、正直な神の民を混乱させます。しかし、神は終わりの時に私たちに對し、どのような教会が神の教会であることを明確に示してくださいました。

「再臨信徒であると公言している種々の団体は、それぞれ、真理を少しずつ持っているが、神はこれらの真理をすべて、神の日のための準備をしている神の民にお与えになった。また、神は、これらのどの団体も知らず、また理解しない真理をお与えになった。」¹²

結論

アダムの時代から今に至るまで、サタンは常に人類に倒錯的な知識を教え込み、「あなたは死なない」「あなたは神になれる」「あなたは神である」「自然は神である」「悪魔は存在しない」などと言ってきました。おどろくべきことに、多くの学識ある人々が実際にそれらを受け入れています。あなたはそのような考えを受け入れるでしょうか？サタンの嘘を信じる者は、より大きな妄想に陥ることになります。そして、もし私たちがサタンによって発明された知識を選択した場合、最終的には確実に破壊という結果を得るのです。（参照：マラキ書 4:1）

「人々が永遠の門口に立って過去を振り返ることは悲しいことである。自分の全生涯がありのままの姿で示される。そのときには世の快樂と富と名誉は、重大なものとは思われない。人々はそのときに、自分たちのさげすんだ義だけが価値あるものであることを知る。彼らは、サタンの惑わしのままに自分たちの品性が形成されたことをさとる。彼らが選んだ衣は、初めから大背信者への忠誠のしるしであった。そのとき彼らは自分たちの選択の結果を見る。彼らは、神の戒め

を犯すとはどういうことであるかを知る。」¹³

しかしその代わりに、主は私たちがご自身を個人的に知ることを望んでおられます。詩篇記者は言っています、「主の恵みふかきことを味わい知れ」（詩篇 34:8）。

神は私たちが創造主だけを崇拝することを望み、次のように宣言しておられます。「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」

（出エジプト記20:3）。そうすることによって、私たちは永遠の命を得ることができます。イエスは次のように説明されました、「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです」

（ヨハネ17:3）。神についての知識が深まるにつれて、私たちは私たちに対する神の愛を感謝し、神に最大限の奉仕を捧げることができる。いつの日か、神は私たちをその都市の門の中に入れ、命の木の實を差し出し、真の知識を授けてくださるだろう。

「宇宙のすべての宝物は、神の救いの研究のために開かれるだろう。

…最小のものから最大のものまで、あらゆるものの上に創造主の名前が記されており、すべてのものにおいて創造主の力の豊かさが示されている。

そして永遠の年月が流れていくにつれて、神とキリストについてのより豊かでさらに輝かしい啓示がもたらされるだろう

。知識が進歩するにつれて、愛、尊敬、幸福も増大する。人間は神について学ばば学ぶほど、神の品性に対する憧れを強めるだろう。」¹⁴

この祈禱週に主があなたをおどろくべきほどに祝福してくださいますように！アーメン。

引用：

1. 預言の霊1巻40
2. 争闘13
3. 預言の霊1巻41
4. SDAバブル・コメンタリ[E・G・柯イト・コメント]1巻108
3
5. 人類のあけぼの上巻88, 89
6. 同上89
7. 預言の霊1巻69.
8. 人類のあけぼの上巻114, 115
9. 人類のあけぼの上巻116
10. 闘争と勇気97
11. <https://www.iamhyperian.com/youaregod/>
12. 初代文集230
13. キリストの実物教訓298
14. 神の驚くべき恵み368

神はあなたを知っておられるだろうか？

ジョアン・セルヴェ・アルウィン

タミル語編集者, インド

神は全知であられる: 靈感は、神が全てをご存じであること、つまり「全知」であることを教えています。「なぜなら、たとわしたたちの心に責められるようなことがあっても、神はわしたたちの心よりもおおいなるかたであって、すべてをご存じだからである」（ヨハネ第一の手紙3:20）。これは、神がすべてのことについて完全な知識を持っておられることを意味します。このお方は何も学ぶ必要はなく、物事を論理的に理解する必要もありません。神はこれから起こること、そして起こったことをすべて知っておられます。神の全知とは、神が完全な知識、完全な理解、完全な知恵を持っていることを意味します。神は創造のすべての理解力の源であり、そのご性質上、すべての知識であられます。私たちは神のかたちに創造されたので、確かに神は私たちのことを知っておられます。神は私たち一人一人を見守っておられます。「彼は地の果てまでもみそなわし、天が下を見きわめるからだ」（ヨブ記28:24）。

神は私たちが知られる前に私たちを知っておられる: ダビデ王は次のように述べています、「あなたの目は、まだできあがらないわたしのからだを見られた。わたしのためにつくられたわがよわいの日のまだ一日もなかったとき、その日はことごとくあなたの書にしるされた。」（詩篇 139:16）。

神はエレミヤに述べられました。「わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、あなたを知り、あなたがまだ生まれないさきに、あなたを聖別し、あなたを立てて万国の預言者とした」（エレミヤ1:5）。

歴代志上22:9には、

ソロモン王の生活状況が神にあらかじめ知られていたことが記されています。

主はヨシヤが誕生する32年前にその名前を与えられ、その生涯を神に従い、神の目に正しいことを行う数少ない王の一人であると預言されました（列王記上 13:2）。

アブラハムは、諸国民が彼から出るという約束を神から与えられましたが、その時、彼には子供がいませんでした。彼の妻サラは不妊でした。彼らは、約束の子イサクが生まれるまで25年間待ちました。サラは、子供を産むために自分の召使ハガルをアブラハムに与えることによって、神の預言が成就するように「助け」ようと考えた。それは神のご計画ではありませんでしたが、それでも神は憐れみをもってハガルを慰め、預言は成就しました（創世記 16:12）。

アブラハムが99歳のとき、神は待望の子供を約束されました。「神は言われた、「いや、あなたの妻サラはあなたに男の子を産むでしょう。名をイサクと名づけなさい。わたしは彼と契約を立てて、後の子孫のために永遠の契約としよう」（創世記 17:19）。

バプテスマのヨハネの誕生も同様に預言されていました（ルカ1:13）。

キリストの誕生は、主の天使がマリヤに現れたときに、前もって告げられました。「すると御使が言った、『恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり』」（ルカ1:30-32）。

彼らが生まれる前からすべてをご存じの主は、私たち一人一人のこともご存じです。

神は私たちの考えを知っておられる：

神は私たちがこれまでに行ったことをすべて知っておられますが、私たちがこれまで考えたこともすべて知っておられます。神は絶対的に私たちのことをすべてご存知です。詩篇記者は言いました、「あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえます」（詩篇139:2）。私たちは自分の考えを他人から隠したり、意図的に嘘をつくことで自分の考えについて他人を欺くことさえできます。しかし、私たちは神に対して何も隠すことはできません。聖書には次のように記されています。「そして、神のみまえには、あらゆるでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない」（ヘブル4:13）。

神は知識の神であられる：

サムエルの母であるハンナの祈りは次のように宣言しました。「あなたがたは重ねて高慢に語ってはならない、たかぶりの言葉を口にすることをやめよ。主はすべてを知る神であって、もろもろのおこないは主によって量られる」（サムエル記上2:3）。

ダビデ王は、次のように告げました、「あなたは後ろから、前からわたしを囲み、わたしの上のみ手をおかれます。このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません。これは高くて達することはできません。」（詩篇139:5, 6）。

神は将来をご存じである：

神は、将来、生じる事柄をご存じです。主は次のように述べられました。「わたしは終わりのことを初めから告げ、まだなされない事を昔から告げて言う、『わたしの計りごとは必ず成り、わが目的をことごとくなし遂げる』と。」（イザヤ46:10）

。

神は創世記 18:18

において、アブラハムの未来について語り、シリアの王であるベンハダド（列王記下 8:9）、ヒゼキヤ（列王記下 20:1）、ソロモンについて預言されました（列王記5:5）。

これらの人々の将来をご存じである主は、間違いなく私たちの将来もご存じです。ですから、神の知恵に服しましょう。

神は私たちの祈りを聞かれる：「そのときモーセは主に呼ばわって言った。ああ、神よ、どうぞ彼女をいやしてください。」（民数記12:13）。

主はモーセの祈りを聞き入れられ、ミリアムはハンセン病から癒されました。

ヒゼキヤ王が死に至るほどの病気にかかったとき、預言者イザヤは彼がたしかに死ぬと告げましたが、王は主に祈りました。主は彼を憐れみ、彼の命を延ばしてくださいました（列王記下20:3-6）。

ヨシュアの祈りに応えて、太陽は静止し、月も静止しました（ヨシュア10:12-14）。これら忠実な人々の祈りを聞いてくださった神は、私たちの祈りも聞いてくださいます。

生命の危機に瀕したとき、神はエステルを聞き入れ、ご自分の民を救い出してくださいました。

神はわたしたちの名前をご存知である：

神は聖書の中で人々の名をあげて呼んでおられます。このお方はヤコブ、モーセ、ヨシュア、サムエル、タルソのサウルに名を挙げて語られた例があります（イザヤ43:1; 出エジプト記3:4; サムエル記上3:10; 使徒行伝9:4）。

神は人々に名前をお与えになった：

神は有名な父祖にこのようにお告げになりました、「あなたの名は、もはやアブラムとは言われず、あなたの名はアブラハムと呼ばれるであろう。わたしはあなたを多くの国民の父とする

からである。」(創世記17:5)

サラ:

神から新たな名前を授けられたのはアブラハム一人だけではなく、彼の妻もでした。「神はまたアブラハムに言われた、あなたの妻サライは、もはやサライといわず、名をサラと言いなさい。」(創世記17:15)。

彼女が諸国の母となり、諸王が彼女から生まれることになっていました。

ヤコブ:

ヤコブもまた、主から新たな名前を授けられました。御使は言いました、「その人は言った、あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との力を争って勝ったからです」(創世記32:28)。

マヘル・シャルル・ハシ・バズ:

預言者イザヤには神によって名付けられた息子がいました、その名前も預言の一部でした。イザヤの妻が息子を産んだ「その時、主はわたしに言われた、その名をマヘル・シャルル・ハシ・バズと呼びなさい」(イザヤ8:3)。

エズレル:

預言者ホセアの長子には、神から意味のある名前が与えられました。：「主はまた彼に言われた、あなたはその子の名をエズレルと名づけよ。しばらくしてわたしはエズレルの血のためにエヒウの家を罰し、イスラエルの家の国を滅ぼすからである」(ホセア1:4)。

ロルハマ:

預言者ホセアの娘も、主から象徴的な名前を与えられた一人です。：「…主はホセアに言われた、あなたはその名をロルハマと名づけよ。イスラエルの家をあわれまず、決してこれをゆるさないからである」(ホセア1:6)。

ロアンミ:

預言者ホセアの次男は神によって名付けられました。：「主は言われた、『その子の名をロアンミと名づけよ。あなたがた

は、わたしの民ではなく、わたしは、あなたがたの神ではないからである』」(ホセア1:9)。

神はさまざまな方法で私たちに語られる:神はあらゆる力を持っておられます。このお方は偏在しておられます。このお方は主権者であられます。聖書には、神が個人、家族、国家に語られたという記述がたくさんあります。過去にイエスはさまざまな方法で語られましたが、それは今日も同様です。神は被造物を通してすべての人に語りかけられます。「神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、…被造物において知られていて、…したがって、彼らには弁解の余地がない」(ローマ1:20)。「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。この日は言葉のかの日につたえ、この夜は知識をか夜につげる」(詩篇19:1, 2)。

神は過去に、天使、預言者、夢、幻、奇跡、さらにはロバを通して、ご自身の民に語られました。ロバが口を開いてバラムに話しかけたのです(民数記22:28)。

神のみ言葉を通して私たちに語られる:イエスは神の言であられます(ヨハネ1:1)。み言葉は、今日でも神が私たちに個人的かつ力強く語られる一つの方法です。私たちは神のみ言葉を通して神との関係を築くだけでなく、必要なときはいつでも、柔和と恐れをもって、他の人に対し、答えられるようにしておかなければなりません(ペテロ第一3:15)。

悪魔が荒野でイエスを誘惑したとき、主は神の言葉から真理を引用することによって悪魔の誘惑に答えられました(マタイ4:1-

11)。私たちは神のみ言葉の中で見出される真理、つまり私たちの魂の敵を打ち負かすことができる御霊の剣を学ばなければなりません。神の武具をすべて身に着けるとき、私たちは悪魔の策略に立ち向かうことができます(エペソ6:11)。

神の言葉を尊重し、従うことが神の声を聞くための鍵です(参照:ヨハネ14:21,23)。

神は静かな細い声で語られ

る:預言者エリヤが落胆し、落ち込んでいたとき、神は予期せぬ方法で彼に語りかけました。時に神は、風や地震や火を通して語られることもありますが、ほとんどの場合、神は静かな小さな声で語られるので、私たちは注意を払わなければなりません（参照：列王記上19:11-13）。

神は御子イエスを通して語られた:神は御子の人格、性格、言葉、行動、働きを通してご自身を完全に現されました。イエスは、その全人格をもって人間に神を明らかにされます。イエスは、たとえ話、物語、教訓を用いて人々に教えられましたが、特に、敬虔な生活を送るイエスご自身の模範を通して人々に教えられました。（参照：ヘブル1:1, 2;マルコ4:34;マタイ7:3-5;ヨハネ13:3-7）。

神は聖霊を通して語られる:イエスがこの地上におられたとき、神はイエスを通して人類に語りかけ、イエスが御父のもとに戻られたとき、聖霊が遣わされました。聖霊は、私たちを全ての真理に導いてくださる助け主になってくださいました（ヨハネ14:26）。神の聖霊は、イエスを個人的な救い主として信じて受け入れるすべての人に注がれ、イエスは私たちをすべての真理に導いてくださいます。ですから、父と御子と聖霊のみ心に服従しましょう。

神は全ての心を探られる:ダビデは自分のむすこに次のように訴えました、「わが子ソロモンよ、あなたの父の神を知り、全き心をもって喜び勇んで彼に仕えなさい。主はすべての心を探り、すべての思いを悟られるからである。あなたがもし彼を求めらば会うことができる。しかしあなたがもしかれを捨てるならば彼は長くあなたを捨てられるであろう」（歴代志上28:9）。

ソロモン王へのこの助言は、私たちが何を想像しているかについて神がご存じであるということ、一人ひとりに対して明らかにしています。すべての行為と思考において細心の注意を

払いましょう。

主なる神は心をご覧になる:神は預言者サムエルに、ダビデに王として油を注ぐように言われ、最も重要なのは外見ではない、と説明されました。最も重要なのは神だけがご覧になっている心です（サムエル記上16:7）。

神の目はすべてのものをご覧になる:

聖書は、すべての事柄を見る神の目について象徴的に語っています。「主の目はあまねく全地を歩きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる」

（歴代志下16:9）。「わたしの目は彼らのすべての道を見ているからである。みなわたしに隠れてはいない。またその悪はわたしの目に隠れることはない」（エレミヤ16:17）。「耳を植えた者は聞くことしないだろうか、目を造った者は見ることをしないだろうか」（詩篇94:9）。

神は悪人が何を考えているかをご存じである:「このように、神は彼らのわざを知り、夜の間には彼らをくつがえされるので、彼らはやがて滅びる」（ヨブ34:25）。

ネブカデネザル王は、自分の力によって偉大な都市バビロンを建設したことを誇りに思っていました。その言葉がまだ口に残っているとき、天から声が発せられ、彼は7年の間、王になることができず、野生の動物たちと暮らし、牛のように草を食べるだろうと伝えられました。

（参照：ダニエル4:17-37）

その後、彼は自分の罪に気づき、神に立ち返りました。

神は地上での出来事をご存じである:

主なる神は燃える柴の中からモーセに語りかけ、民をエジプトから導き出し、奴隷状態から救い出すよう告げられました。「主はまた言われた、「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを、つぶさに見、また追い使う者のゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている」

（出エジプト記3:7）。

神は地上で起こるあらゆる出来事を見守っておられます。

私たちは、うむことなく、主に信頼を置きましょう。

神は過去をご存じである：使徒は次のように確証しています。「世の初めからこれらの事を知らせておられる主が、こう仰せになった」（使徒行伝15:18）。

神は裁きにおいて完全である：知識において完全な神だけが人類を裁くことができになります（ペテロ第二3:7）。人々がすべてを知っておられる神のみ前に立たなければならぬことを悟るとき、それによって彼らの生き方が高められるべきです。イエスは次のように言われます、「あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」（マタイ12:37）。

神は約束を守られる：神はご自分の民に次の約束をなさいました。「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば」（エシヤ29:13）。

私たちが心を尽くして神を求めらば、神の声を聞くことができます。神はすべての人の心の中に何があるかを正確にご存知です。神が私たちのことを知っているならば、私たちが人生で何を体験しているかをご存じということです。私たちは一人ではなく、忘れられたわけでもありません。神は私たちが人生で直面する困難を知っておられます。神は私たちの誘惑や家族の状況をご存じであり、決して私たちが離れたり、見捨てたりしないと約束してくださいました。申命記31:6;ヨハネ3:16。

神はいつでも困窮している子らと共におられる：ダリヨス王はバビロンの統治者であり、ダニエルを初代総監に据えました。ダニエルは神を信じ、主の命令に従いました。嫉妬深いライバルたちは王を説得して、すべての人が王だけを崇拜し、他の神を崇拜する者はししの穴に投げ込まれるという法律を制定させました。ダニエルは一日に三回、窓を開けて神に祈っていたため、案の定、ししの穴に投げ込まれ

た。しかし、主なる神が彼とともにおられ、ししの口を閉ざしてダニエルを守ってくださいました（ダニエル6:21, 22）。

ネブカデネザル王はバビロン州に金の像を作り、献像のために権力者全員を招待しました。ひれ伏してその像を拝まない者は、燃える炉の中に投げ込まれることになりました。ひれ伏して像を崇拜しなかった3人の若いヘブル人は、燃えさかる炉の中に投げ込まれました。主なる神は彼らとともに燃える炉の中にいたため、彼らは焼かれませんでした。火は、彼らに対して何の力もありませんでした（ダニエル第3章）。

神はモーセとともにイスラエル人をエジプトの奴隷状態から導かれました。彼は奇跡的に岩からの水と天からのマナを人々に供給されました。主なる神は海を分け、民は乾いた陸地を渡りました（出エジプト記14:16）。その後、その同じ神が同じ海の深みで敵を覆いつくし、民に救いをもたらしました。彼は今日でも私たちのために働いてくださる同じ神です。彼は昨日も、今日も、そして永遠に同じです（参照：出エジプト記第14章）。

モーセの死後、神は民に乾いた地面のヨルダン川を渡らせました。主の契約の箱を担いだ祭司たちは、ヨルダン川の真ん中の乾いた地面にしっかりと立っていました（参照：ヨシュア第3章）。

神はノアとその家族とともにおられ、彼らを洪水から守ってくださいました。なぜなら、彼らはみな神に従ったからです。「主はノアに言われた、あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである」（創世記7:1）。

洪水は地上で40日間続き、すべての肉は死に、すべての生命体は破壊されたが、神はノアとその家族を守られました。主は彼らと共におられました。

アブラハムはカルデアのウルを離れるように神から召されました。彼は神の命令を疑うことなく従い、彼の子孫が新し

い国家になるという神の契約の約束を信じました。

(参照：創世記12章)。

神がアブラハムに約束をし、それを守られたように、神は私たちにも約束をしてくださっています。

創世記39:1-

6では、ヨセフは自分の兄弟たちによって奴隷として売られました。主なる神は未知の国でヨセフとともにおられ、そこで彼はポテパルの好意を得て、自分の全家をつかさどらせました。神は、状況を導き、ヨセフをエジプトの司とし、特に来たるべき飢きんへの備えの責任者としました。(参照：創世記41:37-

45) ヨセフは主が自分と共におられることを知っていました。

ヨナが巨大な魚のお腹の中にいたとき、神はヨナと共におられました。主は彼をそこで守り、苦しみの中で祈りを聞いてくださいました。その後、魚はヨナを、すなわちニネベに行き、町全体に悔い改めるよう説得することに同意したヨナを吐き出しました。彼も最初は従いませんでしたが、自分の義務を回避したことを悔い改めました。私たちは、神が私たちに何を求めても、どんな状況でも神に従う必要があります。私たちは神の声に従うことをためらってはなりません。**神は私たち一人一人に呼びかけておられる：**

主なる神は私たちに何も求めておられません。ただ主が求め

ておられるのは私たちの心です。

「わが子よ、あなたの心をわたしに与え、あなたの目をわたしの道に注げ」(箴言23:26)。そして主は私たちに、神のみ声を聞くために、ご自身の戒めと聖書の言葉に従うようにお求めになります。私たちは神と共に時を過ごさなければなりません。主と共にいればいるほど、私たちは主の声をよりよく知ることができます。「あなたがたの目は見ており、耳は聞いているから、さいわいである」(マタイ13:16)。

信仰が成長するにつれて、私たちは神の声を聞くことができるようになります。イエスは言われました、「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る」(ヨハネ10:27)。

私たちは神との関係を妨げているものをすべて明らかにしてくださるよう神に願い、それから神に従わなければなりません。そのためには、私たちは聖書を瞑想しなければなりません。私たちは祈りと礼拝を通して神の許へ行かなければなりません。私たちは神の御前にとどまっているべきです。主はこう言われます、「静まって、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、全地にあがめられる」(詩篇46:10)。私たちの品性が天の書に刻まれていることを忘れずに、純粹で真実で毅然とした態度を保ちましょう。アーメン。

問題の本当の原因

アルカディ・マングル

牧師, モルドバ

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ16:33)。

何の問題もない人生を想像できますか？ 罪の世界に生まれた私たちにとって、このようなことを想像することは難しいものです。しかし私にとって、愛の神を初めて詳しく知り始めた瞬間から、問題のない世界はおとぎ話ではなく、むしろ神によって確かに実現されつつある事業であるという発見に魅了されてきました。

問題の根源

問題について語るとき、辛さ、悲しみ、腹立たしさ、不快、痛みなどを指します。これらの問題は、故意かそうでないかにかかわらず、人々の罪深い行為によって引き起こされることがよくあります。罪が彼らの人生を支配する力であるため、彼らの行動は私たちの世界に多くの不幸をもたらしています。

「わたしたちの最初の祖先は、この世界にわざわいの水門を開いてしまった。そしてかれらの例にならう者はみな、同様の結果を刈り取る。神の愛がその律法の一つ一つの戒めの基礎である。そして戒めを離れる者は、自分で自分の不幸と破滅をもたらしているのである。」¹

したがって、罪とは法律違反を意味する単なる法律用語ではありません。それはまた、それを始めた本人だけでなく、その行為に関係する人々にも多くの問題を引き起こす複雑な過程の始まりでもあります。

罪は神が発明したものではない

多くの人は、宇宙に罪が出現したことの責任は、神にあると考えているようです。この点については、次のような誤った考えが引用されることがあります。

罪は法を犯すことである。神は法の作者である。したがって、律法が存在しなかった場合、罪は起こりえない。

神は最初に罪を犯したルシファーを創造された。もしルシファーが存在していなければ、罪も生じなかつただろう。

そのような考えは誤りです。靈感は次のことを明らかにしています。

「神は悪を創造されなかった。彼はご自身に似た良いものだけを造られた。…悪、罪、そして死…それらはサタンに由来する不従順の結果である。」²

この点を正しく理解すれば、神の律法の真の目的と私たちにとっての価値を理解することができます。なぜなら、律法は私たちが罪を発見または認識してそれに対処できるようにするために与えられたものだからです。上で述べたように、神の律法は罪を用語として定義していますが、その過程は律

法を越えて存在する可能性があります。例を挙げてみましょう。第6条には「殺してはならない」とあります。そして第7条には「姦淫してはならない」とあります。もしこれら2つの戒めが法律に含まれていなかったとしても、人を殺したり姦淫を犯したりすることが良いという意味にはならないでしょう。したがって、これらのことをしても人々はまだ幸せにはなれません。

このようにして、私たちが苦難から守りたい神が、なぜ私たちに神の聖なる律法に従って生きるよう伝えているのかが分かります。聖書が罪の連鎖を断ち切り、罪を避けるためにこのような導きを与えている理由を認めることができます。「こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか」（ヘブル12:1）。

しかし、私たち人間の愚かさの極みは、どんな犠牲が生じるとしても問題を避けようとし、自分が置かれている不快な状況について不平を言いながら、同時に罪を愛し続け、自分自身や周囲の人たちに問題を引き起こすまさにそのプロセスを開始してしまうことです。

利己主義

神は愛です。これは私たちの創造主を全体的に定義しています。神は利己的ではありません。人間は神に似せて創造されました。しかし、罪が入ったときに生じた最初の変化は、愛が利己主義に置き換わったことでした。

「初め、人は優れた能力と調和の取れた精神を与えられていた。彼はまた人として完全で神と調和し、思想も純潔で、きよい目的をもっていた。けれども、神に背いたためその能力は悪に向けられ、愛は利己心と変わってしまった。」³

ほとんどのトラブルの原因は利己主義です。それは、あたかも自分がすべてであり、すべてが自分のためだけであるか

のように感じさせます。その結果、そのような考えは、人を抑圧者に変えてしまいます。聖書を注意深く研究すると、そのような変化を知る

ことができます。罪を犯した後、アダムとエバは、確実な有罪宣告から逃れるために、他のだれかを告発するという傾向がありました。カインがアベルを殺した原因も、同じです。ユダは利己的な目的のために弟子たちの間に不和の種をまき、救い主を裏切ることさえしました。今日でも、利己主義は依然として世界中で問題になっていますが、その問題は、そこだけに限られていません。教会さえも利己主義のせいで麻痺しています。立場、背景、信念、年齢がどのようなものであれ、多くの事柄は墮落した心の満足と欲望を中心として発生します。利己主義が存在するところでは、愛、平和、許し、理解、謙虚さ、柔和さが失われ、その結果、快樂への愛、利得への欲求、貪欲、憎しみ、誤解、不安、不満が現れます。そのような利己的な行動は自滅する運命にあります。

しかし、それとは明らかに反対に、神がいかに利他的であるか、そして主イエス・キリストのご人格を通して神がどれほど素晴らしい模範を私たちに与えてくださったかを理解することができます。以下の段落はそれについて説明します。

『キリストはご自身を喜ばせることをしなかった。』彼は自分自身のためには、何もなさらなかった。彼の働きは墮落した人間のためであった。利己主義は神の御前では恥じた。このお方が私たち人間の性質を取られたのは、私たちに代わって苦しみを受けられるためであった。利己主義、すなわち世の罪は、教会に蔓延する罪となっている。キリストは、人間の利益のためにご自身を犠牲にすることにより、あらゆる利己主義の根源を絶たれる。このお方は何一つ、ご自身の誉れや天の栄光でさえも差し控えられなかった。神は、神が祝福し救うために来た人々の側で相応の自己否定と犠牲を期待しておられる。』⁴

悪が自らを押しつける

罪に関するもう1つの顕著な問題は、それが事前の予告なしに増殖し、蔓延するということです。以上の段落を読むことにより、神は愛であり、この愛が罪によって利己主義に置き換えられたことがわかりました。また、神が命であることを知っているため、命が死に置き換えられたことがわかります。命は意識的な選択です。しかし、地球上で犯された最初の罪には死が含まれていました。

「このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいつてきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである」(ローマ5:12)。

そのような事態は、どのような罪についても生じます。悪は、私たちの意志に反し、私たちが望まなくても増殖します。罪という病気に感染した瞬間から、私たちは罪を担い、同時に、それを伝染させる者にもなったのです。それは悲しむべき状態です。しかし、神が、私たちが希望がない状態で放置する、というようにはなさらなかったことに感謝します！神の救いの計画において、死による昏睡状態から目覚める可能性があります。

二つのカテゴリー

すべての人は罪を犯していますが、全ての人々が罪を犯し続けることを望んでいるわけではありません。そこには違いがあります。テサロニケ第二第二章3節では、罪の道を歩み、特定の要求をすることを選んだ人について「不法の者」と表現されていますが、その要求の1つは、「不法の者」が良いと考

えていることを、全ての人に強制することです。「不法の者」はだれに強制したいのでしょうか？それは間違いなく、聖霊によって目覚めさせられた人々、罪のない創造

主が罪の結果に対して支払った代価を認識した人々です。その「不法の者」の活動は、時代を超えて、これまでも、そしてこれからも問題の根源であり続けるでしょう。靈感が私たちに教えてくれることは次のとおりです。

「ローマ・カトリック教会は、異教とキリスト教との形式を結合したものであり、異教と同じに神のご品性をまちがって伝え、異教におとらないほど残酷でいまわしい慣習を用いてきた。ローマ法王の至上権時代には、教会の教理に対する同意を強制するために拷問の道具があった。教会の主張に譲歩しない者のためには火刑柱があった。審判においてははつきりさせられるまでは決してわからないほどの規模の虐殺があった。」⁵

歴史は繰り返されています。神の民が通過しなければならぬ「大患難」も、「不法の者」によって行われるため、同じ性質のものになります。

「教会と国家の高官たちは、すべての階級の人々に日曜日を尊重させるために、結束して買収や説得や強制を行なうであろう。神の權威の欠如は、圧制的な法令によって補われる。政治的腐敗は、正義を愛し真理を尊ぶ思いを破壊しつつある。そして自由の国アメリカにおいてさえ、為政者や議員たちは民衆の歓心を買うために、日曜日遵守を強制する法律を求める大衆の要求に屈服する。非常に大きな犠牲を払って得られた良心の自由は、もはや尊重されなくなる。まもなく起ころうとしている争闘において、われわれは預言者の言葉の成就を見るのである。『龍は女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った』(黙示録12:17)。」⁶

以上の段落は、多くの人々による次の質問に答えています。「もし、私が罪にかかわることを望まないなら、私には問題が生じないでしょうか？確かに生じるでしょう」。罪が存在する限り、問題も存在します。これが多くの人の失望する

理由です。しかし、私は上記の数少ない人々の一員であることを選びます。そしてこれ以上だれにも迷惑をかけないことを選択します。神のためにも、人々のためにも。

シオンを悩ます者よ、悔い改めよ！

『伝道』という本に書かれている靈感あふれる一節を学んでみましょう。

「私たちの教会には、真理を公言し、改革の取り組みにとって邪魔でしかない人々がいる。彼らは救いの車の車輪の足かせである。この種の人々はしばしば試練のうちにある。疑い、嫉妬、猜疑心は利己主義の産物であり、彼らの本性そのものと絡み合っているようである」。私はそのような人々を慢性的な教会の不平不満を言う者と名付けることにする。彼らは2人の牧師が取り除くことができる以上の害を及ぼす。彼らは、教会にとって負担であり、キリストを信じる人々にとって大きな重荷である。彼らは疑い、嫉妬、憶測の雰囲気の中で暮らしている。キリストの大使たちが悪の働きを阻止し、教会の調和と団結を回復するには、多くの時間と労力が必要となる。それにより神の僕たちの勇気と力は奪われ、彼らを滅びゆく魂を破滅から救うという神から彼らに課せられた働きにおいて、不適格にしてしまう。神はシオンを苦しめるこれらの人々の行いに応じて報いをお与えになるであろう。」⁷

ここでは、この記事の著者である私も含め、だれもが属する可能性がある人々のカテゴリーについて説明しています。これらの人々は神を知り、神に人生を捧げ、邪悪な者の隊列を離れ、罪とは何の関わりも持たない人々に加わりました。しかし、それでも彼らの人生には羨望と疑惑が存在しています。実際のところ、これらの事柄は、一般には、神の律法に対する大きな罪としては分類されないかもしれませんが。しかし、それでも神の教会を落胆させ、破壊し、聖霊の働きを妨げるためのサタンの武器なのです。証は次のようにわ

たしたちに告げています。

「ねたみ、邪悪な憶測、悪口はサタンから生じるものであり、それらは実際に、聖霊による働きの道を妨げる。この世で神の教会ほど、神にとって大切なものはない。神によってこれほど熱心に守られるものは、他に何もありません。神への奉仕をしている人々の影響力を傷つける行為ほど神を怒らせるものはない。人々を批判し、落胆させることにおいてサタンの手助けをし、批判し、落胆させる働きを支援する全ての者は、責任を問われるだろう。」⁸

私は、そのような行為が罪だと言えます。おそらく、そのような行為は、十戒によって直接的に表現された規定の下にあるわけではないかもしれませんが、前にも述べたように、たとえその行為について明らかに適用される戒めがなかったとしても、その行為は、必然的に落胆と罪をもたらす。神と私たちはそのような行為から何も得るものはありません。

私たちは神を私たちの父と呼びます。「教会の名簿上に氏名が書かれ、神の息子、娘であると自称する人々は、神との関係及び同胞との関係について考えるだろうか。私たちは罪を赦してくださる救い主の憐れみに完全に頼らなければならぬにもかかわらず、自分の心をかたくなにし、他の人に同情しないという状態でよいだろうか。何らかの挑発を受けた場合、私たちは不親切な感情を抱いたり、悪感情を抱いたり、復讐を求めたりすべきだろうか？神が私たちを憐れみ、神に対する私たちの罪を赦してくださっているにもかかわらず、私たちは兄弟を非難するために最初の石を投げるべきだろうか？もし神が私たちに裁きを下されるならば、私たちの負債は計り知れないほど大きいことが判明するだろう。しかし、私たちの天の父は、進んで赦してくださろうとしている。人間は、神によって扱われるが、その人自身もつ意見や自信によってではなく、過ちを犯した同胞に対して示す精神に従って扱われる。

「厳しさの精神はサタンの精神である。心の中の誇りは、

大切にされると、妬みや邪悪な憶測を生み出し、復讐につながる。何気ない言葉や行動を誇張することにより、そのような行動が意図的な攻撃であると仕立て上げたり、だれかが私たちに冷たい、無関心、軽蔑に値する不当なことをしたと考へたりする危険性がある。しかし、主は、私たちが告発しているまさにこれらの人々について責任をもっておられる。神の天使たちが彼らに奉仕している。人の心を読むお方は、私たちが悪感情を抱いている人の中において真の善良さを見出すかもしれない。

もしあなたの兄弟があなたに対して不法な行為をしたなら、彼を叱責しなさい。彼が悔い改めるなら、許すべきである。もし、ある人があなたに対して過ちを犯した場合、あなたによる神への違反についてあなたが神に求める扱いと同じ扱いを、あなたはその人に対してしなければならない。慈善は悪を喜ばない。復讐は悪を喜ぶ。良い会話から自分の柔和な知恵を示すことができるようにするために、あなたは熱意を示すよう注意すべきである。あらゆる辛辣な言葉や不親切な行為を避けなければならない。兄弟として愛すべきである。親切にする必要がある。礼儀正しくする必要がある。激しい妬みや争いによって真実を汚してはならない。それがこの世の精神だからである。あなたがたの間で、そのような清くない性質が生じないようにしなければならない。』⁹

斧を根もとに置く

神の王国の準備において、キリストの先駆者である洗礼者ヨハネは、現実について次のように明確に説明しています。「斧がすでに木の根もとに置かれている。だから、良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれるのだ」(マタイ3:10)。

使徒パウロはさらに、致命的で恐るべき根を狙うことの

重要性について次のように警告しています。「すべての人と相和し、また、自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない。気をつけて、**神の恵みからもれることがないように、また、苦い根がはえ出て、あなたがたを悩まし**、それによって多くの人が汚されることのないようにしなさい」(ヘブル12:14, 15〔強調付加))。

「教会は、すべてのねたみ、邪悪な憶測、邪悪な発言を取り除かない限り、教会全体が後の雨を受けることは決してない。憎しみが強まり、自分の性格の一部になるまで心の中に憎しみを抱いた人は、それとは異なる経験をしない限り、後の雨に加わることはできない。』¹⁰

「主は私たちに、諸悪の根源である利己心を捨て去るよう命じておられる。神は私たちに聖霊を豊かに注ぐことを切望しており、自己放棄によって道を開くようお命じになる。自己が神に屈服すると、わたしたちの目が開かれ、自分がキリストに似ていないことによって、他者の道に置かれたつまずきの石を認めるようになる。これらすべてを取り除くよう神は私たちに命じておられる。彼はこう述べている。「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようお互いのために祈りなさい」(ヤコブ5:16)。そうすれば、ダビデが自分の罪を告白した後に抱いた確信をもつことができる。彼は次のように祈っている。『あなたの救の喜びをわたしに返し、自由の霊をもって、わたしをささえてください。そうすればわたしは、とがを犯した者にあなたの道を教え、罪びとはあなたに帰ってくるでしょう』(詩篇 51:12, 13)。

「神の恵みが心の中に存在するとき、魂は、信仰と勇気とキリストのような愛の雰囲気に入れられ、その雰囲気を吸い込むすべての人の霊的生活を元気づけるようになる。』¹¹

「イエスは彼らに近づいてきて言われた、わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と

子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしたちは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」
(マタイ28:18-20)。

「これがあなたの任務である。もし、あなたが同胞を救うために努力する代わりに、自分の悩みや困惑、さらには兄弟たちへの不平さえも彼らの耳に注ぎ込んだとしたら、あなたはキリストに対し、自分の歩みについてどのように説明するつもりであろうか。あなたは、他の人に対しキリストについて話をし、貴重な真理について話したとき、自分の問題から解放されたと感じるかもしれない。しかし、嫉妬や邪悪な憶測、猜疑心に駆られる言葉を発しないようにしなければならない。兄弟たちに関する悪い噂を広めてはならない。このようなことがおこなわれているため、主は望まれるほどに教会に入ってくることができなくなる。あなたは、王の大路をきれいにしないでだろうか。全員がこの邪悪な働きに参加したわけではないが、参加してきた人は、今、隊列に加わろうではないか。」¹²

結論

神は私たちが幸せになることを望んでおられ、私たちの幸福を取り戻すために今も働いておられます。人々は、私たちの問題の仲介人かもしれませんが、根本的な原因は人々の心の中にある罪の力です。しかし、だれもこの力に屈するよう強いられる必要はありません。靈感の筆は、その問題の真実を明らかにしています。「どんなに強い誘惑も、罪の言いわけにはならない。どんなにきびしい圧力があなたの上に加えられようと罪はあなた自身の行為である。困難の根源は新たにされていない心である」¹³

神はこの問題を解決するためにできる限りのことをなさり、イ

エスを通して罪の奴隷状態からの救いを可能にしてくださいました。このお方は私たちがこの機会をしっかりと掴むことを望んでおられます。神の側を選ぶべきです。なぜなら、大患難の後すぐに、罪の創始者と罪そのものが排除され、罪人であり続けることを決めた人々は、罪とともに滅ぼされるからです。まもなく、問題が永遠に終わる時が来ます。各時代の争闘に書いてある通りに、その日が来ることを待ち望んでいます。

「大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙は清くなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたおかたから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる」¹⁴

アーメン！

引用：

1. 祝福の山65
2. ビュー・アンド・ヘルト 1910年8月4日
3. キリストへの道13
4. 教会への証5巻204
5. 各時代の争闘下巻325
6. 各時代の争闘下巻357
7. 伝道370
8. 教会への証6巻42
9. サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1895年2月14日
10. 家庭伝道1896年8月1日
11. 教会への証6巻43.
12. 手紙と原稿22巻 Ms 71, 1907年
13. アドベンチスト・ホーム371
14. 各時代の争闘下巻467

救い主にお会いする

アブ・ルベン・ブダウ著

長老, アメリカ合衆国

私がこれまでの人生で最も幸せな人に出会ったのは、2021年の夏でした。私はメキシコとの国境から数分の距離にある米国最南端の都市の一つ、テキサス州マツカレンで新しく結成されたグループを訪れていました。ある兄弟がラジオ宣教を始めて、地元のラジオ局で福音を伝えていたところ、多くの人が電話をかけて訪問を求めたり、聖書研究を依頼したりしました。そのうちの1人はメキシコ系の60代男性グアダルーペ氏でした。私が訪問したとき、グアダルーペ氏は定期的に教会の礼拝に出席しており、人生を完全に変えていました。彼は安息日を喜んで受け入れ、彼の新しい生活スタイルは聖書に対する新しく深い理解を反映していました。彼は常に笑顔を浮かべており、イエスについて話すときの喜びが周囲に広がりました。彼からは、一度も悲しみや心配の言葉を聞いたことはなく、どこから見ても彼は本当に幸せな人でした。

私たちは日々の出会いの中で、いつも幸せそうな人たちを見かけますが、それが特別なことだとは思いません。健康であるとき、愛する家族を持つとき、快適な生活をしているとき、幸福であることは、必ずしも特別なことではありません。

しかし、グアダルーペ氏の幸福はそのような完璧な人生を送ったことから来たものではなく、むしろ多大な試練や困難にもかかわらず幸福でした。彼はガンで死期が迫っており、医師たちは前年に死んだはずであったと告げており、今は借りた時間を生きています。彼のお腹には結腸瘻（けっちょうろう）バッグが取り付けられており、首の横にはグレープ

フルーツほどの大きさの腫瘍が突き出ていました。彼は首に管が入った気管瘻孔（きかんろうこう）を通して呼吸していましたが、話すためには指でふさがなければなりませんでしたが、彼は質素なワンルームアパートに一人で住んでおり、訪ねてくれる家族もいませんでした。仕事に就くことができなかった彼は、人々の惜しみない心に頼ってテーブルに食べ物を並べ、家賃を払っていました。

人間の観点から見ると、彼には、この世界において、自分に慰めや安心を与えてくれるものはまったく何もありませんでしたが、それでも彼は皆に、自分は悲しくない、幸せだと言いつづけていました。しかし、彼が幸せであることを人々に知らせるために、彼がそのことを話す必要はありませんでした。彼の顔、会話、行動からそれを読み取ることができたからです。

ほとんどの人は、人生ですべてがうまくいくと、ある種の幸福を感じることができそうですが、グアダルーペ兄弟には、肉体的、地上の試練を超えた幸福と平安がありました。同様の経験をした使徒パウロはこう述べました。「だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱いときにこそ、わたしは強いからである」（コリント第二12:10）。

患難の嵐の真ただ中で、どのようにこうした平安を得ることができるのでしょうか。一見、わたしたちの道に悪いことが訪れるように見えている時でさえ「いつも喜んで」いることはどのように可能でしょうか（テサロニケ第一5:16）。

グアダルーペ兄弟には秘訣があり、それを喜んでみんなに話していました。使徒パウロと同じように、彼も救い主に会いました。それが彼の人生の転換期となりました。彼は二度と同じになることはありませんでした。

わたしたちの最大の必要

救い主との輝かしい出会いの前に、使徒パウロは自分自身の旅をしました。実のところ、私たちは皆自分自身の旅をしており、さまざまな場所で幸福や充実感を求めています。世俗的な楽しみを求めて世界に目を向け、この世界が提供するあらゆるものを試す人もいます。宗教の「制限」にうんざりしている非常に多くの若者の間で、放蕩息子の物語が頻繁によみがえっています。使徒パウロのように、さまざまな教義や信念体系の中で神を求めている人もいるかもしれませんが、その人は、居酒屋で飲んでいる男性とまったく同じように神から遠く離れていることに気づくかもしれません。私たちが、神から離れたままでいずれの道を選択したとしても、最終的には同じ結果になります。私たちが、自分自身で考えた方法でこの世の喜びと満足を求めて行うすべての努力は、二重の悲劇にほかならないことが判明します。「それは、わたしの民が二つの悪しき事を行ったからである。すなわち生ける水の源であるわたしを捨てて、自分で水ためを掘った。それは、こわれた水ためで、水をいれておくことのできないものだ」（エレミヤ2:13）。

私たちは創造主と完全に調和して生活し、天の平和で満たされるように創造されました。このつながりが失われると、この世で魂の渇きを満たすものは何もありません。真の平和と幸福は、この世が提供するものによって得ることはできません。その一方で、私たちが救い主に会い、全能者とのつながりが回復したとき、この世の何もかも私たちの天の平安を奪うことはできません。その平安はあらゆる理解を超えています。「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせる

のか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か」（ローマ8:35）。このため、神こそ、人類の最高の必要です。

神なしに、わたしたちにできる最善とは何でしょうか。またこのお方はわたしたちを回復し、「わたしの歩みをたしかにされ」るために（詩篇 40:2）、どれほど遠くまで身をかがめ、御手をのばさなければならぬでしょうか。使徒パウロの経験は、救い主にお会いする前後の偉大な実例です。

敵のために働く

信頼の濫用については、これ以上の具体例はあまり存在しません。この世界の国々では、裏切り行為を犯した者に対して厳しい罰が与えられます。イエスを裏切ったユダの行為により、裏切り者の名は世界中で嫌悪感を持って受け止められることになっています。サタンに仕えている人々について考えるとき、私たちは悪魔崇拝者、その他の公然と邪悪な存在を思い浮かべるかもしれません。しかし、私たちが神のご品性に反して行動するときはいつでも、私たちは敵に仕えているのであり、裏切りの接吻によってユダがそうであったのと同じように絶望的に失われているのです。使徒パウロは改心する前、永遠の王国に反対して働いていました。さらに明確なのは、「イエスに従う人々を迫害することによって、彼は実際にはサタンの働きを行っていた」¹

もしも私たちが神の隊列に加わっていないとしたら、私たちは中立の立場にいるわけではありません。霊的な王国にはそのようなものはないからです。それは実際、大いなる大敵とともに戦い、彼の臣下の一員となることと同じです。使徒パウロは改心後、私たちのこれまでの人生について次のように記しました。「あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた…」（コロサイ1:21〔強調付加〕）。

わたしたちの状態は、もし、パウロのように、神に仕えてい

ると思いながら、そうしているならさらに悪いものとなります。
なぜなら、**誤って自分が自由だと信じている者ほど、絶望的に奴隷にされている者はない**からです。そして、ラオデキヤの悪は、「自分は富んでいる。豊かになった、何の不自由もないと」考え、実際には、「みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者である」（ヨハネ黙示録3:17）ことを**知らない**ことによって急激に増えています。

神がなければ、私たちのすべての働きは無益です。イエスに出会う前、神に仕えるパウロの最善の努力は忌まわしいものであり、彼はそれを生涯後悔していました。「そして最後に、いわば、月足らずに生まれたようなわたしにも、現れたのである。実際わたしは、神の教会を迫害したのであるから、使徒たちの中でいちばん小さい者であって、使徒と呼ばれる値うちのない者である」（コリント第一15:8, 9）。

パウロは、正直であったが、間違っていました。彼は故意で、または知りながら神に敵対したわけではありませんでした。それどころか、彼は自分が神への奉仕をしていると考えていました。しかしそれでも、彼がまさにサタンが望んでいた場所において、彼の望むことをしていたという事実は変わりませんでした。厳格かつ合法的な宗教に対する彼の熱意により、彼は人々を罰したり傷つけたり、伝道手段と称して武力や脅迫を行ったりするようになりました。そのような方法はサタンの道具箱から直接出てきたものであり、神の王国を前進させるには、まったく出番はありません。

自分たちの「益」を放棄する

タルソのサウロは正しいことをしたいと願う献身的なユダヤ人でした。「わたしは八日目に割礼を受けた者、イスラエルの民族に属する者、ベニヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法の上ではパリサイ人、熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である」

（ピリピ3:5, 6）。

彼自身の目には、彼は正しい宗派に属し、正しい教会に通い、正しい儀式を實踐し、正しい教義を持ち、熱意に満ちているように見えました。彼には自分の業績を誇るべき世俗的な理由がすべてありましたが、それでも自分にとって「益」となるこれらすべてに依存すること（ピリピ3:7）は、キリストとは相容れませんでした。これらの「益」はユダヤ人ならだれでも誇るべきものだったでしょうが、パウロは後に、誇るべきものはイエスの十字架だけであると理解しました。

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである」（ガラテヤ6:14）。

それらすべてが必ずしも悪いものではありませんでしたが、彼が救いのためにそれらを信賴している限り、彼はキリストを得ることができませんでした。神は愛によって動機づけられた奉仕と従順だけをお受入れになります—それ以外のものはみな「やかましい鐘や騒がしいよう鉢」にすぎません（コリント第一13:1）。

もしこれらのものが救い主を完全に受け入れ、信賴することを妨げているなら、「わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思ひましよう（ピリピ3:8）。

「いっさいのものを損と思う」ことは、使徒パウロにとって犠牲とはみなされませんでした。

主がいつくしみ深いことを一度彼が味わってみると、それまでの「益」はすべて青ざめました。あるいはパウロの言葉によれば、それは彼にとって「ふん土」（ピリピ3:8）となりました。畑に隠された宝を見つけた男は、その畑を買うために「持ち物をみな」売らなければならなかったとしても少しも悲しくは思いませんでした。宝物を見つけた彼の喜びがあまりにも大

きかったからです（マタイ13:44）。

わたし

たちはキリストのために何を捨てなければならないでしょうか。

これらのものは、わたしたちを「みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者」にするだけです

（黙示録3:17）、そしてわたしたち自身の「義」は「汚れた衣」と同じ価値しかありません（イザヤ64:6）。

良いことを行いたい

良いことをしたいと思うことは重要です。しかし、「したいと思う」だけでは十分ではありません。なぜなら、ちょうど重力の法則が私たちを地球上で抑圧しているのと同じように、私たちが罪の奴隷にし続ける自然の法則が私たちの中に存在しているからです。「そこで、善をしようと欲しているわたしに、悪がはいり込んでいるという法則があるのを見る」（ローマ7:21）。

私は十代の頃に経験したことを鮮明に覚えています。私はルーマニア北東部に住む祖父母を訪ねていましたが、近所の人にガーデニング用の道具を借りに行かされました。私が隣家の門に着いたときは朝で、隣人はちょうど2匹の子豚を馬小屋から緑の草が生い茂る広い庭に放したところだった。子豚たちは外に出るとすぐに一方向に全速力で走り始め、庭の隅にある小さな泥の水たまりに着くまで止まりませんでした。彼らはその水たまりに横たわり、言葉では言い表せない興奮とともにぐるぐる回り始め、ついには全身泥だらけになった。これらすべてに20秒もかかりませんでした。それが終わると、彼らは達成感に満足し、食べに行きました。

罪はちょうどこの二匹の子豚の泥への欲望と同じように、私たちの本質に深く根ざしています。聖書は私たちに次のことを深く考えるように勧めています。「エチオピアびとはその皮

膚を変えることができようか。ひょうはその斑点を変えることができようか。もしそれができるならば、悪に慣れたあなたがたも、善を行うことができる」（エレミヤ13:23）。

罪は私たちの存在全体に深く侵入しており、その束縛の鎖から逃れるには人間の力をはるかに超えた、神ご自身の力が必要です。そしてパウロはその力を福音の中に見出しました。「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる**神の力**である」（ローマ1:16〔強調付加〕）。

出合い

福音の素晴らしい点は、神は私たちの状態をご存知であるが、それでもなお、私たちが所望しておられるということです。神はご自分の御子をこの世につかわされました。それは、麻薬中毒者と自己義の教会信者の両方が、致命的なもつれから救い出され、神が「すべてのものの中に働いてすべてのことをなさる」恵みの王国に連れて行ってくださるためです（コリント第一 12:6）。

わたしたちの敵意がこのお方に向かっていたにもかかわらず、「わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んでくださったのである」（ローマ5:6）。

イエスはわたしたちが良くなり始めたときに、あるいは少なくともわたしたちがご自分に従おうと努力していることをご覧になったときに、わたしたちのために死なれたのではありませんでした。そうではなく、「わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう」（ローマ5:10）。

イエスとの出合いは、単なる偶然の出合いではありません。それは神の側からの意図的なものです。神は私たちが

探し、見だし、私たちの心の扉をノックして、私たちの注意を引こうとされます。時々、神は聖書の一節、友人、パンフレットを通して私たちに語りかけられます。また、時にはある出来事を通してかもしれません、わたしたちがそれを良いと感じても、悪いと感じても。このお方はダマスコへ向かう途中、タルソのサウロに聞こえる声で語りかけられました。そして主は彼の盲目を通して彼に語りかけられました。そして彼は次のことを学びました。

万事が働く

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、**万事を益**となるようにして下さることをわたしたちは知っている」(ローマ8:28)。

良いことが私たちのために役立つことを理解し、受け入れるのは簡単です。しかし、そこには何も特別なことはありませんが、私たちの神は特別な神であり、特別なことを行うことがおできになります。使徒パウロは、ここで、神は私たちの益のために良いものだけが働くのではなく、「悪い」ものも含めてあらゆるものが益となるようにしてくださいと記しています。初めて救い主に会ったとき、彼は目が見えなくなりました。目が見えていたのに、完全な暗闇の中にあるようになったのは、何という悲劇でしょう。それでいながら、全盲である一方、彼はこれまでの人生で最高の視力を持っていたのです。彼は自分では十分ではなく、自分が「罪過と罪によって死んでいた者」であることを認めました(エペソ2:1)。外面的には「従順」であったにもかかわらず、彼は自分が救い主を切実に必要としていることに気づきました。この経験が彼にもたらした変化に注目すべきです。彼はもはや、教会に対するあの猛烈な迫害者ではなく、神の真の素晴らしさを学び知ろうとする心優しい学生でした。

クリスチャンは時々、「悪い」と思われる出来事を経験す

ることがあります。しかし、単なる車のタイヤのパンクから生命を脅かす病気に至るまで、神は私たちの永遠の利益のために万事を益とすることがおできになります。私たちがすべきことは、神が私たちの人生で起こるよう許されたすべてのことについて神に感謝し、神がすべてを支配下に置かれていることに信頼することです。「すべての事について、感謝しなさい。これがキリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである」(テサロニケ第一5:18)。

救い主にお会いすることは、聖化の過程であり、わたしたちが神の愛という温もりに自分の心を開くとき、神によって実行されます。そして、「平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さる」(テサロニケ第一5:23)。

それは、私たちの存在全体を愛の主権に日々委ね、服従することです。それは、神の愛の大きさ、すなわちまさに神の本質を、日に日に発見することです(ヨハネ第一4:7)。それは、日々の労苦と困難を通して、神を信頼することを学ぶことであり、またもし、私たちが自分自身を神の手に委ねれば神は私たちの人生における万事を支配して下さるということを認識することです。救い主にお会いするということは、神をますます知ることであり、困難な状況にあっても平安と喜びを得ることができるようになるということです。「キリストの力がわたしに宿るように、むしろ喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと侮辱と危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱いときにこそ、わたしは強いからである」(コリント第一12:9, 10)。

「気落ちしている者に対して、信頼できる救済策がある。それは信仰と祈りと行いである。信仰と活動は、日毎に増大する確信と満足を与える。あなたは不吉な予感に恐れを感じ、失望落胆に陥ろうとしているであろうか。一見絶

望的で、最悪の事態にあっても恐れてはならない。神を信じよう。神はあなたの必要を知っておられる。神はすべての力を持っておられる。神の無限の愛とあわれみは、消耗することがない。神はその約束をなし遂げられないのではないかと恐れてはならない。神は永遠の真理である。神は、神を愛する人々と結ばれた契約を変更なさらない。そして神は、忠実なしもべたちが必要とするだけの能力をお与えになる」³

最も暗い日々、一見、極めて厳しい状況におかれているように思われるときでも、恐れることはない。神を信じる必要がある。

神はご自身のみ旨を実現し、ご自分の民のために万事を益としてくださる。神を愛し、神に仕える者の力は、日々新たにされる。このお方の見解が彼らの奉仕におかれ、こうして彼らが神の目的を遂行する際に誤りを犯さないようにする。

神への奉仕において落胆してはならない。私たちの信仰は、それに加えられる圧力に耐えるのである。神はご自分の僕たちに必要な力をすべて与えることができ、喜んでお与えになる。神は、神に信頼を置く人々の最高の期待を越えて応えてくださるだろう。」⁴

私たちが経験することが何であれ、私たちには神の保証がある。「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」(ヘブル13:5)、そして「あなたがた(わたしたち)の信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はないよりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう」(ペテロ第一1:7)。

今日、私たちの救い主にお会いできることは私たちの特権です。私たちが反逆してどれほど神から離れていたとしても、私たち一人一人、神に近づくことができます。今日、神は

すでに私たちの不法行為に対する身代金を全額支払い、私たちに御手を差し伸べてくださいます。私たちがそれを受け入れるなら、神は私たちから罪の痕跡をすべて根絶し、私たちの石の心を神の愛に満たされた心に置き換えてくださいます。私たちの人生は決して同じではなくなり、わたしたちの救われた生涯の日々、王の奉仕において幸せな日々となります。

「あなたに必要なものは平和である。つまり天のゆるしと平和と愛を心にいただくことである。それは、金で買うことも知識で到達することも、また知恵で手に入れることもできない。自分の力では絶対に手に入れることは望めないのである。けれども神は、これを『金を出さずに、ただで……買い求』(イザヤ55:1) める賜物として与えられるのであるから、ただ手をのばしてそれをつかみさえすれば自分のものである。主は、『たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ』(イザヤ1:18) 「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け」(エゼキエル36:26) と言われる」⁵

引用：

1. Johann Wolfgang von Goethe:
<https://www.goodreads.com/quotes/528301>.
2. -
3. 国と指導者上巻133, 135
4. 教会への証8, pp. 10, 11.
5. キリストへの道62, 63

ここで今、神を知る

エリ・テリオ著

総理, 世界総会

わたしたちは神を知ることができるだろうか？

より深い理解と高次の力とのつながりを求めるのは人間の本性の一部です。クリスチャンにとって、それは神を求めることを意味します。この渴望は新しいものではなく、ポストモダンの人類に特有なものです。それは創造以来私たちの中に存在してきた願望です。キリストが地上を歩まれたときでさえ、彼の周りの人々は神に近づくことを切望していました。

神をもっと詳しく知りたいという願いから、ピリポはイエスに言いました。「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さいれば、わたしたちは満足します」（ヨハネ14:8）。

しかし、わたしたちはどのように神を知のでしょうか。また、ありのままのわたしたちが、今ここで、このお方を知ることが一体可能なのでしょうか。私たちは死すべき存在から不死の存在に変えられるのを待つ必要があるのではないのでしょうか。

ヨブの友人の一人、ゾバルはこう尋ねました。「あなたは神の深い事を窮めることができるか。全能者の限界を窮めることができるか」（ヨブ11:7）。

靈感は次のように答えています。「私たちは調べることによって神を見いだすことはできない。しかし、神は御子のうちにご自身を現された。御子は御父の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であられる。神についての知識を望むなら、私たちはキリストのようにならなければならない。…キリストを個人の救い主として信じる信仰を通して純粋な人生を送ることは、信仰をもつ者に神について、より明確で高度な概念をもたらす。」¹

ピリポにイエスは次のようにお答えになりました。「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか」

（ヨハネ14:9）。

私たちは一生探しても神を見つけることができません。しかし、神は私たちにご自身を明らかにしてくださいました。神は見いだされることを望んでおられます。それほどまでに、神は私たちが神に出会うための数多くの方法を備えてくださったのです。

神を知る方法

神は預言者エレミヤを通して、私たちが今ここで神を知る前に必要な条件を与えておられます。「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば」（エレミヤ29:13）。

私たちの神への探求は理論に限定されるべきではありません。私たちは毎日、積極的に神を探する必要があります。神はその憐れみによって、私たちが神に近づき、神をより深く知ることができる手段を備えてくださいました。

1. 聖書

これまで聞いたことのない人の名前が会話で出てきて好奇心がそざられた場合、あなたはその人についてもっと知るために時間を割いてその人について調べましょう。耳にした短い言及だけでは満足できず、グーグルで他の人が彼らについて何と言っているか、あるいは彼ら自身について何と言っているかを読むかもしれません。あなたは周りの人たちに、何

を聞いたか、どう考えているかを尋ねることでしょう。

神は、ご自身についてもっと知りたいと願う人々のために、情報のバイキングを用意してくださいました。表面的な知識だけで満足すべきではありません。キリストは私たちにこう言われました。「聖書を調べなさい」(ヨハネ5:39欽定訳)。神は私たちが神を個人的に知ることを望んでおられます。したがって、神はご自身の啓示として聖書を提供されました。

「祝福された聖書は、私たちに偉大な救いの計画についての知識を与え、どのようにしてすべての人が永遠の命を得ることができるかを示している。この本の著者はだれだろうか?—

イエス・キリストである。彼は真の証人であり、ご自身の証人にこう述べている。『わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びることなく、だれもわたしの手から彼らを奪うものはない』。聖書は私たちにキリストへの道を示し、キリストにおいて永遠の命が明らかにされている。』²

聖書を開くときの私たちの態度と意図は、そのページから何を収集するかを決めます。私たちが心を開いて神の言葉を学ぶなら、神の言葉をより深く知るよう導いてくださいます。聖霊に聖書の純粋な真理を私たちに印象づけていただくなら、私たちは神をより深く知ることができます。

「ユダヤ人はキリストについて証する聖書を持っていたが、聖書の中でキリストを識別することができなかった。彼らが旧約聖書の真理を人間の意見とあまりにも混ぜ合わせたため、その教えは神秘的になり、人間に対する神のみ旨は覆い隠された。キリストの山上の説教は、独善的な律法学者やパリサイ人の教義と事実上矛盾していた。彼らは神をあまりにも誤って伝えたため、神は同情心も慈悲も愛も無い厳格な裁判官とみなされた。彼らは、『主はこう仰せられる』という権威を持たない、際限のない格言や伝統を人々に提示した。彼らは、真の生ける神を知り、崇拝していると公言し

たが、神と御子に明らかにされた神の性質を完全に誤って伝えていた。キリストは、神の愛に対する人々の信頼を回復するために、それらの誤った表示を一掃するために絶えず努力された。イエスは人間に、最高支配者を『われらの父』という新しい名前と呼ぶようにお教えになった。この名前は私たちと神との真の関係を表しており、人間の口で誠実に語られるとき、それは神の耳に音楽のように響く。キリストは、新しく生きた道によって私たちを神の御座に導いてくださる。』³

あなたは、心を開いて聖書を読んで研究し、学び、変えられたいと思っているのでしょうか。そうであれば、あなたは神を知り、これまでになく人生の中で神の力を経験するでしょう。あなた自身だけでなく、あなたの周りの人たちにも変化を認めることでしょう。

2. 祈り

Google

で調べていた人が少しでも有名な場合、彼らと電子メールや電話で連絡を取ることが可能ではないでしょう。もしかしたらオフィスの番号があるかもしれませんが、個人的に連絡を取ることができないでしょう。

しかし、頭を垂れ、手を組むことによって、私たちは神に近づくことができます。祈りは神への直接の経路です。それは私たちと神との関係を深め、それによって私たちは天の父についてより深く理解できるようになります。祈りは私たちが生活の中に神の臨在を認識するのを助け、神とのつながりを強めます。

祈りを通して、私たちは感謝を表し、神の導きを求め、罪を告白し、許しを求めることができます。祈りはまた、静かに熟考する機会を与え、聖霊の声を聞くことを可能にし、私たち自身の必要と、喜んで私たちを祝福し克服する力を与えてくださる神についてより深い理解を与えてくれます。

「聖書には、高く聖なところにおられる神は、何もしないで、ただだまってただひとりでおられるのではなく、みこころをなそうと待っている千々万々の聖天使たちにとりかこまれていられることが示されている。われわれがみわけることのできない方法で、神は、宇宙のどんな部分とも活発に交通しておられる。しかし、神の関心と全天の関心が集中されているのは、この一粒の世界、救うためにひとり子をお与えになった魂である。神はしいたげられた者の叫びを聞くために、み座から身をかがめておられる。真心からの祈りのひとつひとつに対して、「わたしはここにいる」と、神はお答えになる。神は苦しんでいる人々やしいたげられている人々を起こして下さる。誘惑されるたびに、試みられるたびに、神のみ前にある天使が、救い出すために近くにいるのである。

一羽のすずめでさえも地に落ちると必ず天父の注意をひく。サタンは神を憎むあまりに、救い主の関心のまとなっているものを何でも憎む。サタンは神のみ手のわざを傷つけようとし、ものの言えない被造物さえ滅ぼすことをよろこぶ。神の守りのみ手によってのみ、鳥たちは生きて、そのよろこびの歌でわれわれをよろこばせることができるのである。しかし神は、すずめでさえもお忘れにならない。『それだから、恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である』(マタイ10:32)。』⁴

「日々の祈りは、恩恵の中に成長するためにも、また霊的生命そのもののためにも必要である。たびたび祈って、自分の思いを神にまで高める習慣をつけねばならない。もし心がさまよっていたら、それを呼び戻さねばならない。忍耐強く努力することによって習慣がつけば、それはついには容易になる。一瞬間でもキリストから離れたら安全ではない。キリストが自らお定めになった条件を守るときだけ、キリストは私たちの歩みの一步一步に同伴して下さる」⁵

「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもら

えるであろう」(マタイ7:7)。

「誘惑にさらされている哀れな無力な人間が格別に祈ることに努めず、信仰のうすい様をみて天使たちはいったいどう思うことであろう。天使は神のみ前にひざまずき、神のみそばにはべることを好み、神と交わることをこの上ない喜びとしている。それなのに、神のほか与えることのできない助けを最も必要としている地上の子らが、聖霊の光も神の臨在も仰がず、満足して日を送っているように思われるのである」⁶

「私たちは、絶えず心の戸を開いて、イエスに天来の客として心のうちに住んでいただくよう招待しなければならない。

たとえ私たちは、汚れた腐敗した空気に包まれていても、その毒気を吸う必要はなく、天の清い空気の中に生きることができる。真剣に祈って心を神の前に高め、不潔、不正な思いが入らぬようあらゆる戸を閉じることができる。神の助けと祝福を受けようと心を開いている者は、この世の人よりは清い雰囲気の中を歩き、天と絶えざる交わりを続けることができる。」⁷

「私たちはイエスと話することができる。エノクが神と話したように、イエスと話することができる。彼は自分の試練についてすべて主に話すことができた。これがエノクが神と共に歩んだ道であった。そして自分の道に光が射したとき、彼は次のようには述べなかった。『もし私がこの道を歩んだら、友人や親戚は私のことをどう言うだろうか』。否、彼は、どのような結果になろうと、常に正しいことを行った。

「エノクは神とのつながりを持つとしたが、神とのつながりを持たない人たちは、あらゆる良いことから自分たちを引き離す者とのつながりを持つ。私たちは皆、形成すべき品性を持っている。エノクは義なる品性を形成し、その結果、彼は死を見ることなく天国に移された。主が二度目に来られるとき、死を見ずに天国へ移される人がいるだろう。そして、私たちもその中に入るのかを知りたい。私たちが知りたいのは、自分たちが完全に主の側にいるのか、つまり、欲によって世に

ある滅びからまぬかれ、神の性質にあずかっているのかということである。それは、試練や困難のないきれいな道を自分の足のために作ろうとすることではなく、神との正しい関係に自分を置き、その結果は神に任せることによってである。」⁸

今後、皆さんはもっと祈りますか？

3. 関係

もしかしたら、会うことがむずかしい有名人についてもっと知りたいと思って調べているうちに、その人に個人的に会ったことがある人物と会うかもしれません。彼らの経験を聞いて、それを他の人の経験と組み合わせると、すぐにその人の性格についてより完全に豊かなイメージが形成されていきます。

地域社会で神を礼拝することは、私たちと神との関係を豊かなものにします。経験を共有することにより、私たちは神の恵みとご品性の一面を発見し、それを自分の経験と組み合わせることで、神がどのようなお方であるかをより完全に理解することができます。

神の家族の一員であることにより、私たち自身の生活の中で神の性質を発展させる機会が与えられ、私たちに対する神の愛と恵みについてより深い洞察が得られます。

聖書は、私たち一人一人が、さまざまな形での神の恵みの忠実な管理者として、受け取った賜物が何であっても他の人に仕えるために用いるべきことを説明しています。主が私たちを許してくださったのと同じように、私たちは互いに忍耐し、だれかに対して不満を抱いている場合には許すべきです（ペテロ第一4:10; コロサイ3:13）。

「機械はすべての部分が完璧であっても、その動きには多くの摩擦や磨耗が存在する。しかしオイルを塗ると静かにしっかりと仕事をする。それと同様、私たちも、私たちの間、および私たちが働きかけている人々との間において摩擦を

防ぐためには、心に恵みの油を注ぐ必要がある。こうして、真理の議論だけでなく恵みの油も得るならば、私たちはメッセージを力強く伝えることができる。偏見は打ち破られ、素晴らしい仕事が達成されるだろう。…

世界に警告するという偉大で厳粛な仕事に従事している人は、神の事柄について個人的な経験をただでなく、お互いへの愛を育み、心をつにし、判断をつにし、お互いの目を見るべきである。この愛の欠如は、私たちの狡猾な敵を大いに喜ばせる。彼は羨望、嫉妬、憎しみ、そして意見の相違の作者である。そして彼は、これらの卑劣な雑草が、愛、天に成長する柔らかい植物を窒息させるのを見て喜んでいる。…

「同僚の評判は神聖に守られるべきである。人が他人の欠点を見つけたとしても、それを他の人の前で誇示したり、それを重大な罪にしてはならない。それらは判断の誤りである可能性があるが、神はそれを克服するために神の恵みを与えてくださるだろう。もし神が、完璧な天使たちが人間よりも墮落した人類のために働きをするであろうことを見ていたら、彼らにそれを委ねただろう。しかしその代わりに、神は、貧しく、弱く、間違いを犯した人間によって必要とされている援助を送られた。彼らは同胞と同じように弱さを持っているから、彼らを助けるために最も備えができています。」⁹

「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。」

（ヨハネ第一4:7, 8）。

4. 宗教

キリストが模範として私たちに示してくださった宗教は実践的なものです。それは本や理論というよりも、むしろ、現実の労働や奉仕の中に存在しています。

「使徒は、宗教が、習慣や儀式、信条や理論のうちに
あるのではないことを教えた。もしそうでしたら、生まれなが
らの人は、この世のことを理解するように、調査することによ
ってそれを理解できるはずである。パウロは、宗教とは実際
的な救いの力であり、完全に神から来る原則であり、魂に
働きかける神の再生力を個人的に経験することであると教
えた」¹⁰

人間は生来、狭量です。私たちは、他人が私たちにどれ
だけ恩義を感じるべきかを知るために、自分が他人のために
行った行為の数を数えます。私たちは、自分たちに対して
行われた不法の記録を心の中に残します。自分自身に目
を向けると、私たちは次のような考えに陥ります。「ごらんさ
い、私は、他の人のために沢山のことをした。わたしはなんと
かわいそうなのだろう。他の人のためにあらゆることをしなけれ
ばならない」。こうした考えは私たちをキリストから遠ざけるだ
けです。

神を本当に知るためには、私たちは神のようになる必要
があります。神の恵みと聖霊を通して、私たちは同胞が何を
するか、あるいは値しないかを考慮することなく、同胞に仕え
なければなりません。私たちは際限なく許し、惜しみなく助
けるべきです。「わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れては
ならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようにな
る」（ガラテヤ6:9）。

そうするとき、私たちは神の性質を理解し始めます。私た
ちは、私たちに對する神の愛と、私たちが無価値であるにも
かかわらず、神がどのように私たちを無限に許し、祝福してく
ださっているかを垣間見ることができます。これこそ、この地
上でいま真に神を知る力強い方法です。

なぜ神を知るか？

あるとき、男の子が友達と遊んでいた。彼らは別の場所

で遊ぶことにし、その場所へ行く途中、小川に出たが、小川
を越えるためには丸太のうえを歩かなければなりませんでし
た。その一人の少年を除いて、全員が反対側へ渡りました
。友人たちは彼に「渡りなよ！」と呼びかけました。しかし少
年は渡ることを拒否しました。

彼の友人の一人が丸太の上に戻ってきて、手を差し出
した。友人は、「つかみな。離さないから」と言った。それでも
少年は動きませんでした。

そのとき、少年の父親が到着して、「どうして川を渡りたく
ないの？」と尋ねました。

「怖いよ、お父さん」少年は言いました。

父親は手を握って「行こう！」と言いました。父親の手を
握って、少年は恐れることなく川を渡りました。

来年のある時点で、不安定な丸太に沿って川を渡らな
ければならないかもしれません。わが兄弟姉妹のみなさん、
天の御父が今後の困難や試練にもかかわらず、御父の摂
理を信頼し、御父が保護の中で平安を享受できるようにし
てくださっていることを知りながら。

「そうであれば、神の憐れみを忘れず、それを貴重な宝
石のようなもののようにとおこうではないか。闇の力が私
たちを取り囲み、わたしたちのための神の愛と保護について
疑いをささやくとき、人生経験の中で私たちを照らすことを許
された光に信頼すべきである。」¹¹

私たちは将来に関するすべての詳細を知る必要はあり
ません。私たちは今ここで知る必要があるのは、神だけです
。そうすれば、私たちは信仰によって神の手をつかむことがで
きます。神は未来をご存知であり、私たちを手放したりはな
さいません。

「あなたの神、主なるわたしはあなたの右の手をとってあ
なたに言う、『恐れてはならない、わたしはあなたを助け
る。』（イザヤ41:13）。

結論

神を知ることは、一連の信条や規則を学ぶことではありません。

それは、イエス・キリストにおいて私たちに明らかにされた神の偉大な愛を理解し、霊的な実践を通して神とのより深いつながりを築くことです。それは、私たちの生活や周囲の世界における神のご臨在を学び、認識するために、開いた心と思いを保つことです。

「キリスト教の恵みと経験の本質は、キリストを信じること、神と神がつかわされたひとり子を知ることである。しかし、ここで多くの人々が失敗する。神への信仰が欠けているからである。彼らは、キリストの自己否定と屈辱の中でキリストとの交わりに導かれることを望む代わりに、常に自己の優位性を求めている…ああ、もし私たちがただ神の愛に感謝するならば、私たちの心はどれほど広くされ、私たちの限られた同情心はさらに大きくされ、利己主義の氷の障壁から抜け出し、私たちの理解が今よりも深くなることだろう。…

「神が私たちのために耐えた屈辱に深い感銘を受けず、またキリストの屈辱が自己のへりくだりに導かないのは、私たちが神を知らず、キリストへの信仰を持っていないためである。」¹²

あなたが経験豊富な霊的信者であろうと、旅を始めたばかりであろうと、私の祈りは、あなたが今ここで神を知るよ

うになることです。

以下は、今週の祈禱週のためのいくつかの質問です。

1. 神を見出すことは可能だろうか。
2. 神はどのようにご自分をわたしたちに表されるだろうか。
3. あなたにその価値があってもなくても、神が今年授けて下さったいくつかの祝福は何ですか。
4. 他の人々との関係は、どのように神をもっと近く知るための助けとなりますか。

引用：

1. 彼を知るために9
2. 大西洋ユニオン・グリーナー1909年6月9日
3. 同上
4. 各時代の希望中巻90, 91
5. 青年への使命108,109
6. キリストへの道127
7. 同上136, 137
8. 原稿リ-ス9, pp. 256, 257
9. ヒストリカル・スケッチ119, 120
10. 患難から栄光へ下巻143
11. I-ス・インストラクター1897年7月15日
12. 彼を知るために104

永遠に神を知る

デヴィタ・バティワリ著

長老、南太平洋ユニオンミッション・フィジー

さほど昔ではない時分、広大な太平洋に囲まれた小さい島の村で育った青年がいました。彼は非常に技術に優れた大工となり、まもなく自分の大工事業を設立しました。家具の工作から簡素な家を建築するところまで及ぶ仕事をしていました。青年にはまた良く働く、訓練を受けて後に卒業して学校の教師となった弟がいました。彼らは二人とも自分の仕事において非常に成功し、大いに彼らの家族の誇りと喜びの源となっていました。しかしながら、彼らの成功は、村の同胞仲間たちの心の中で妬みの源になりました。嫉妬した数名が村中に悪い噂を流し、この兄弟たちの成功の源は父親が何らかの形の魔術を行うことから生じたものだと告げました。

この難問のあいだ、青年の生涯は、不吉な悪魔的な感化力にさらされました。彼はつねに彼につきまとう暗い服を着て目につきやすい「男」によって絶えず嫌がらせを受け、昼も夜もよく出沒しました。同時に、奇妙な病気が彼を苦しめ始め、左目はまったく見えなくなりました。苦境によって一明らかに青年の苦しみは神からの罰だということが正当化されたと感じ（そしてまたかつての妬みと苦々しさと嫉妬があふれ出るがゆえに）、村人たちは彼らをあざけり、彼らの家族の家を焼き捨てました。彼らはすべてを失い、青年は村から追放されました。追放されたにもかかわらず、彼はどこに行っても悪霊につきまとわれました。

彼は絶望して、悪魔の霊から自由になろうと、救出を求めて主に叫びました。

こうして彼は古い仲間と再び知り合うようになり、後にな

って彼が主要都市の最も古いセブンスデー・アドベンチスト教会の一つの長老だとわかりました。彼の友だちが安息日の真理や他の聖書的な教理について青年に伝えました。聖書に基づいたこれらの主題の説明により彼は確信させられ、彼が以前から持っていたクリスチャン信仰に関して深く魂を探るよう導かれました。これにより、彼は最終的にバプテスマへと導かれ、その町の彼の友人の教会へいつも出席するようになりました。

怒りと深く根ざした敵意がこの事態に発展しただけであったため、悪霊は青年と今度はその家族にまで攻撃を倍増しました。これは彼が5年間教会員で執事にまでなったにもかかわらず続きました。彼の状況は悪魔が時に教会の一番後ろの列に座り、彼が前で奉仕している一つ一つを観察しているほど悲惨なものでした。彼以外はだれも不吉な訪問者を見ることはできませんでした。この死力を尽くした経験は、これらの悪魔との遭遇から救出されたいという心からの願いをさらに深め、この青年をさらに神との関係へ深く入らせました。彼の時間は大いに定期的な断食と祈りと聖書研究へ費やされました。

その結果、彼は徐々に彼の生活において様々な習慣が変わっていきました。顕著なものは、夢の中で伝道者に教えられて以来、完全に植物に根差した食事になりました。神のみ摂理以外に何ものでもなく、青年は自分の家から5分ほどのところに似たような教会があることを聞きました。わかっていたのは唯一、彼らが「セブンスデー・アドベンチスト改革運動（SDARM）」と名乗っているということ、そして彼ら

の基本的な信条のいくつかは自分が執事をしている教会の現在の立場とは100%同列ではないということでした。しかしながら、彼は次の安息日にその教会へ行ってみようと思心しました。

この決心を感じて、悪魔の攻撃はますます激しく増していき、準備の日（金曜日）と安息日の朝の間ずっと続けました。教会へのたった5分の徒歩がこの人の人生の中でもっとも厳しいときに思われました。悪魔はその限られたありつたけの力を用いて、彼の精神を衰弱させ、目的を断念させようとした。しかし、教会の正門がこの青年の損なわれた視野に現れ、ヤコブの祈りのように、彼はそこを通りました。…

かつてないような自由な感覚が彼の心に押し寄せながら、彼は開かれた教会の扉へと続く道を見ました。そこでは安息日学校が行われていました。小さい子たちや青年たちが自分たちの教室にいる光景と、なじみある歌が聞こえてくるこの特別な安息日はいつもと違う経験となりました。彼が前に歩いていくと、いつものなじみある声が彼の名を呼びました。キリストの愛がない心のように冷たく、殺人者のように不吉な存在の言葉を聞きながら、彼は声の主へ顔を向けました。それは不吉な存在でした。彼の言葉は冷たく、その言葉は単純でした。門の外に抑えられた犬のように立ちながら、但し暗い目はじっと青年の魂へ差すようなまなざしを向けながら、悪霊は言いました、「これは真の教会である。わたしはここから去る。そしてあなたがこの教会から去るなら、わたしは再びあなたに会うであろう」。その霊がなんと云おうと、青年はこの教会の中へと歩いていきました。青年は以前の教会の中でさえ、いつも悪霊につきまといわれていたので、それほど真剣に受けとめませんでした。数分後、自分の招かざる連れ合いがどこにいるのかと興味がわいて、彼は小さなSDARM教会の裏側へと目を向けました。たしかに、その霊はどこにも見当たりませんでした。

その日以来、彼は自分のかつての会衆を去り、SDARM教会へ加わろうと決心しました。安息日の礼拝後家に戻ったときでさえ、悪霊のしるしはありませんでした。長年たって、彼は悪霊の嫌がらせのない—もっともさわやかな眠りを楽しむことができました。さらに聖書を研究し、彼は教会の基本的な信条に精通するようになり、バプテスマを受けて、いまは彼の地元のSDARM教会で執事をしています。彼は、この生涯の経験がもっと、さらに少し神の愛とみ摂理を感謝し、このお方を知るように導いたと言います。これによって、彼は人が勝つことができるのは、キリストとのより近い関係を通して、またこのお方のみ摂理に明け渡すことによってのみであること認めるようになりました。人が命を得ることができるのは—この世でも来たるべき世でも—キリストを通してのみであると。彼は、このすべてが次の一つの聖句に具現化されていると信じています。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります」（ヨハネ17:3）。

この読み物は、信徒にとってこの聖句が意味するところ、また「永遠の神を知る」とは何を意味するかへ深く入っていきます。

知ること

「知る」というフレーズは、思考の流れや文章において、特定の状況に良く当てはまる特定のアイデアや真実があるということを表現するために使用されます。たとえば、泣かずに玉ねぎを切る方法を「知る」ことは、特に野菜を泣く理由にしたくない場合には、もっておくと便利なスキルです。ここで、その特定の知識がその特定の状況において、大いに適用できることがわかります。

これを念頭に置いて、次の2つの部分からなる質問を自分自身に問いかけることができます。「キリストは私たちに何

を知ってほしいと願っておられるのだろうか?」

「それは何に適用されるのか?」

ヨハネ17:3に基づくと、答えは非常に簡単です。

知識の側面: 神とイエス・キリストについて知る。

結果の側面: 永遠の命を得る。

その知識を得た結果、つまり神を知ることの結果を理解するとき、そうであれば、聖書と預言の霊による解説に焦点を当てなければなりません。

永遠の神

だれかを知るとき、私たちはありきたりなこと以外に、その人に関して可能な限りすべてのことになじみがあることが期待されます。たとえば、特定の問題に対する彼らの好みや立場は何か。彼らが「嫌いなもの」は何か。そして彼らの気質はどのようなものかです。基本的に、私たちは他の人も知っているかもしれない表面的な知識と比較して、その人の核心的な部分についてより詳しいことが期待されます。

神、および神がどなたであるかについては非常に多くの誤りや誤解があり、多くの人々が迷走しています。そのような、誤解の氾濫にもかかわらず、聖書はこの問題について「白黒」をはっきりと示しています。

それでは、神に関する本質的な事柄について、聖書はどのような知識を私たちに明らかにしているのでしょうか。

聖書がこの点を明らかにした最初の具体例の一つは、出エジプト記34章において、まさに神の口によって述べられているものです。そこでは次のように語られています。「主は彼の前を過ぎて宣べられた。『主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず、父の罪を子に報い、子の子に報いて、三、四代におよぼす者。』」

(出エジプト記34:6, 7)。

私たちは、ここで神のご品性の特徴、すなわち神を他の神から区別する神の本質的な側面を見出すことができます。無限にして永遠の宇宙の創造主が、ご自分について知るべきことの全てを数行で表現していますが、このお方がそうなさったのは、有限で邪悪な人間でもできるかぎり、表面的な知識でも得ることができるためだということは、驚くべきことであり、知的には不公平ともいえます。

神、および神がどなたであるかについての正しい知識を得るためには、私たちがモーセと同じように「岩の裂け目」に隠されなければならないという点も興味深いです(出エジプト記34:5)。

モーセの別の経験において、キリストについて「岩」という特別な形で、次のように述べられています「この岩はキリストにほかならない」(コリント第一 10:4)。神を知り、神に感謝するための条件は、「それほど明白ではないが」、まずキリストに導かれるということだと分かります。そのようにして初めて、私たちは本当に神を「見る」ことができるのです。キリストご自身がヨハネ 14:6 でこの点についてコメントし、はっきりと次のように述べておられます。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」(ヨハネ14:6)。

彼はまた、神のみ言葉の誤った解釈によって天国へ行こうとしていた自己義のユダヤ人たちと話されたとき、はっきりと次のように述べておられます。「聖書を調べなさい。あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」(ヨハネ5:39欽定訳)。

預言の霊は次のように告げています。

「モーセが神の栄光を見たのは、彼が岩の裂け目にかくれたときであった。わたしたちも裂かれた岩なるキリストの中にかくれるときに、キリストはご自分の裂かれたみ手をもって、わたしたちをおおってくださるのである。そして、わたしたちは、

主がしもべたちに言われることを聞くことができるのである。神は、モーセにあらわされたと同じように、わたしたちにも、『あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者』としてご自身をあらわしてくださることであろう（出エジプト記34:6, 7）。¹

先に述べたとおり、神に関するこの知識を獲得するというのは、解明するのに永遠という時間がかかります。しかし、神は憐れみ深いため、私たちの救いのために今、必要なことをみ言葉の中に与えてくださっています。彼ははっきりと私たちにこう述べておられます。「隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである」（申命記29:29）—もっとも特別にキリストの模範においてです。

砂の上に記されたこと

わたしは、これを要約する特別な実例はヨハネ8章に書かれている経験、すなわち、キリストとパリサイ人によってキリストの前に連れてこられた女の経験であると思います。

この章は、キリストがオリブ山に行き、神殿に戻ってきたところ、陰謀を企てるパリサイ人たちが「落とし穴」となる質問を用意した、というところから始まります。

「すると、律法学者たちやパリサイ人たちが、姦淫をしている時につかまえられた女をひっぱってきて、中に立たせた上、イエスに言った、『先生、この女は姦淫の場でつかまえられました。モーセは律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じましたが、あなたはどう思いますか。』（ヨハネ8:3-5）。

キリストがそのよう名誉毀損の試みに遭遇した他の状況と比較すると、キリストの反応はかなり雄弁でした。

「彼らがそう言ったのは、イエスをためして、訴える口実を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた」（ヨハネ8:6）。

この上なく激怒し、告発者たちは再びキリストに一連の質問を迫り、ついにキリストが反応しました。単純でありながら魂を探るような質問で応じ、その後、再び身をかがめて神秘的な文章を続けました。

「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」（ヨハネ8:7）。キリストの言葉と行動の効果は、ヨハネが書いた通り、そこにいたすべての人に深く罪を自覚させ、譴責しました。「これを聞くと、彼らは年寄から始めて、ひとりびとり出て行き、ついに、イエスだけになり、女は中にいたまま残された」（ヨハネ8:9）。

ついに、キリストはご自分の砂の上のすぐれた著作を終わられ、「そこでイエスは身を起こして女に言われた、女よ、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか」（ヨハネ8:10）。

彼は、何を書いておられたのでしょうか。そのことは、私たちが神の恵みによって永遠に到達するまでは分からないかもしれませんが、次に、私たちが知っていることは、私たちのこの体験全体を要約しています。このお方の質問に答えて、「女は言った、『主よ、だれもございませぬ』。イエスは言われた、『わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。』（ヨハネ8:11）。

わたしはこの物語が、永遠の命に関して神とキリストについて知るべきこと全てを表している数多くの物語のうちの1つであると私は信じています（ヨハネ17:3）。

永遠の命

人類の墮落以来、私たちは救出のために約束されたゆるぎない希望をいだいてきました。蛇の欺瞞は次の言葉で叱責されました。

「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼

のかかとを砕くであろう」（創世記 3:15）。

ここで言及されているこの「種」、つまりキリストは、地上での奉仕において、その働きを実行されました。ここでは、私たちのように価値のない者に対して神が惜しみなく与えてくださった救いの愛を見ることができます。

直接的な意味では、全人類はヨハネ8章において非難されている女性によって代表されています。悪魔によって罪を告発されている私たちは、その刑罰、すなわち死を当然受けるべきです（ローマ6:23）。しかし、神は道を設けてくださいました。神の救いの計画についての知識を得ることによってのみ、人は、それを受け入れて救われるか、拒絶して失われるかの選択をすることができます。

しかし、神のみ言葉によって表明された意志によれば、神はだれも失われることを望んでおられません。

イスラエル人に懇願しながら、神はこう言われます。「すべてのとがを捨て去〔れ〕。…イスラエルの家よ、あなたがたはどうして死んでよからうか。わたしは何人の死をも喜ばないのであると、主なる神は言われる。それゆえ、あなたがたは翻って生きよ。」（エゼキエル18:31, 32）。

キリストがこの世に来られ、死に、復活された目的は、神、及び私たちへの神の無限の愛に関する知識を私たちに与えるためでした。聖霊の働きによって、私たちはすべての真理に導かれる備えが整い、そのとき私たちは生きるための選択をする機会を得ることができます。

『永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたがかわされたイエス・キリストを知ることであります』とキリストは言われた（ヨハネ17:3）。また預言者エレミヤは言った、『知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇ってはならない。誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さくあって、わたしを知っていること、わたしが主であって、地に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知ること

がそれである。わたしはこれらの事を喜ぶと、主は言われる』（エレミヤ9:23, 24）この知識を得る者が、霊的にどれほど広く深く高く到達するかは、人間の心ではほとんど悟ることができない。』²

「神は、神のことばをわたしたちにお与えになった。これはわたしたちの救いに必要な真理がみな与えられたことを示している。こうした命の泉から水をくんだ者は、数えきれないほどあるけれども、水は尽きる様子もない。同様に多数の者が主をながめつつ、その同じみかたちに変えられていった。彼らがキリストの品性について語り、キリストと彼らとがいかに重大な関係によって結ばれているかを話すとき、彼らの心は燃えるのである。しかしながら、こうした探究者は、このような崇高で神聖な主題を探りつくしたわけではない。さらに、多数の人びとが救済の神秘の探求にあたってよいのである。キリストの生涯とその使命の特徴とをめい想し、真理の発見のため努力すればするほどより明らかな光が輝くのである。新たな探究が行われるたびに、これまでの啓示になかったさらに興味深いものを見るのである。研究の課題は無尽蔵である。キリストの受肉、キリストの贖罪の犠牲と中保の働きに関する研究は、勤勉な生徒の永遠の研究課題となることであろう。そして、彼らは、無限の年月にわたって、大空を仰ぎみながら、『確かに偉大なのは、この信心の奥儀である』と叫ぶことであろう（テモテ第一3:16）。』³

私たちは、愛による親切、裁き、義を行使される主が永遠であることを理解し、知る必要があることに注目します。このことを踏まえて、私たちは子供たちに神の知識と神の基準を教えなければなりません。子どもたちに教える時間を確保するために、この世のわずらいと闘いながら、その任務を適切に遂行できるようにするため、神の導きを求め、神聖な方法で神に介入していただく必要があります。**「神の知識を教えなさい**—神を知ることは永遠の命を意味する。あなたは

このことを子供たちに教えているだろうか。それとも世の標準に合わせるよう子供たちに教えているだろうか。あなたは、神があなたのために備えておられる住まいに入る準備をしているか。…子どもたちに救い主の生涯と死とよみがえりについて教えなさい。聖書を勉強することを教えなさい。…永遠にわたって生きることのできる品性をつくるよう、子供たちに教えなさい。神が子供たちを守り、祝福してくださるよう、わたしたちはかつてなかったほどに祈らなければならない。」⁴

結論

ダビデは各世代にわたる主の忠実さについて考え、詩篇100:5で次のように叫びました。「主は恵みふかく、そのいづくしみはかぎりなく、そのまことはよろず代に及ぶからである」。そして聖書の最後の章である黙示録において、私たちは神の永遠の性質を思い起こすことができる。「今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能者にして主なる神が仰せになる、『わたしはアルパであり、オメガである』。」

(黙示録1:8)。イエスを通して、私たちは永遠の命を得ることができます。このお方は死なれました。その血は私たちの罪を清め、このお方を知ることにより、この賜物を通して私たちは永遠の命を得ることができます。「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主イエス・キリストにおける永遠のいのちである。」(ローマ6:23)

「もし銀や金で人々の救いを買うことができたとすれば、『銀はわたしのもの、金もわたしのものである』と言われるかたは、いともたやすく人々の救いを成就されたであろう」(ハガイ2:8)。しかし、罪人は、神のみ子の尊い血によってのみあがなわれることができた。救いの計画は犠牲の中にあつた。使徒パウロは「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである」と書いている(コリント第一2:8, 9) キリストはあらゆる罪からわれわれをあがなうために、ご自身をお与えになった。そして救いの最高の祝福として、『神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである』(ローマ6:23)。⁵

「世々の支配者、不朽にして見えざる唯一の神に、世々限りなく、ほまれと栄光とがあるように」(テモテ第一1:17) アメン。

引用：

1. キリストの実物教訓143
2. 患難から栄光へ下巻231
3. キリストの実物教訓112, 113
4. 家庭の教育537
5. 患難から栄光へ. 下巻218, 219

詩

あなたを知らなかった

Reformation Hymnal #315



わたしたちはあなたを知るべきほど知らなかった、
あなたの知恵を、力を学んでこなかった、
地の事がらがわたしたちの思いを満たしてきた、
そして、過ぎゆく時のとりに足りない事がらが、
主よ、わたしたちに光を与え、あなたの真理を見させてくださ
い、
そしてあなたを知る賢明なものとしてください。

わたしたちはあなたを恐れるべきほどに恐れなかった、
あなたの恐るべき目の下にひざをかがめなかった、
行いも、言葉も、思想も守ってこなかった、
神が近くいますことを覚えずに。
主よ、あなたが近くにおられることを知る信仰を与えてくださ
い。
そして聖なる恐れという恵みを与えてください。

わたしたちはあなたを愛すべきほど愛さなかった、
あなたに愛されていることを心にとめてこなかった、
あなたのご臨在をつめたく求めた、
そしてあなたのみ顔を見ることを弱々しく望んだ、
主よ、純粹で愛する心を与えてください、
あなたそのものである愛を感じ、自分のものとするために。

わたしたちはあなたに仕えるべきほど仕えなかった、
ああ！ なされずに放置された数々の義務、
ほとんど熱意なくなされた働き、
負けたか、あるいはかろうじて勝った戦い！
主よ、熱心さを与え、力を与えてください、
あなたのために労し、あなたのために戦うために。

—トーマス・B・ポーラック